

法学部 政策科学科 ( 2012年度入学生 )

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 藤田 俊	2学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 閉講		1	2	
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	2学期	1	2	2
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	2学期	1	2	3
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	2学期	1	2	4
		1年			
	教養としての平和学 閉講		1	2	
		1年			
	可能性としての歴史 藤田 俊	1学期	2	2	5
		2年			
	家族の再生 閉講		2	2	
		2年			
	文化と政治 神原 ゆうこ	1学期	2	2	6
		2年			
	言語と認知 漆原 朗子 他	2学期	2	2	7
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	8	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	9	
	2年				
生活世界の哲学 高木 駿	1学期	1	2	10	
	1年				
共同体と身体 閉講	1学期	2	2		
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 寺田 千栄子	1学期	1	2	11
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	12
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	13
	柴原 健太郎	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	14
	豊田 直樹	1年			
	フィジカル・ヘルスI	2学期	1	2	15
	山本 浩二	1年			
	フィジカル・ヘルスI	2学期	1	2	16
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・ヘルスI	2学期	1	2	17
	柴原 健太郎	1年			
	自己管理論	1学期	1	2	18
	日高 京子 他	1年			
	キャリア・デザイン	1学期	1	2	19
	真鍋 和博	1年			
	キャリア・デザイン	1学期	1	2	20
石川 敬之	1年				
キャリア・デザイン	1学期	1	2	21	
見館 好隆	1年				
コミュニケーションと思考法	2学期	1	2		
閉講	1年				
プロフェッショナルの仕事	1学期	2	2	22	
見館 好隆	2年				
大学論・学問論		1	2		
閉講	1年				
法律の読み方	2学期	1	2	23	
中村 英樹 他	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		担当者			
	備考			クラス	
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	社会調査	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	統計を読む・統計をつくる		1	2	
	閉講	1年			
	フィジカル・エクササイズI ( バドミントン )	1学期	1	1	24
	山本 浩二	1年			
	フィジカル・エクササイズI ( 外種目 )	1学期	1	1	25
	徳永 政夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI ( 女性のスポーツ )	1学期	1	1	26
	倉崎 信子	1年			
	フィジカル・エクササイズI ( ソフトバレー / バレーボール )	1学期	1	1	27
	小幡 博基	1年			
	フィジカル・エクササイズI ( バレーボール )	1学期	1	1	28
	八板 昭仁	1年			
	フィジカル・エクササイズII ( バスケットボール )	2学期	1	1	29
	八板 昭仁	1年			
フィジカル・エクササイズII ( バドミントン )	2学期	1	1	30	
梨羽 茂	1年				
フィジカル・エクササイズII ( ソフトバレー / バレーボー	2学期	1	1	31	
小幡 博基	1年				
フィジカル・エクササイズII ( 外種目 )	2学期	1	1	32	
梨羽 茂	1年				
フィジカル・エクササイズII ( バドミントン )	2学期	1	1	33	
豊田 直樹	1年				
■教養演習科目	教養演習AI ( 防衛セミナー )	1学期	2	2	34
	戸蒔 仁司	2年			
	教養演習AI ( 発達障がいセミナー )	1学期	2	2	35
伊野 憲治	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	36	
石川 敬之	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AII 高木 駿	2学期	2	2	37
		2年			
	教養演習AII 石川 敬之	2学期	2	2	38
		2年			
	教養演習BI ( 防衛セミナー ) 閉講	1学期	3	2	
		3年			
	教養演習BII 閉講	2学期	3	2	
		3年			
	プロジェクト演習I 閉講	1学期	2	2	
		2年			
プロジェクト演習II 閉講	2学期	3	2		
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	39
		1年			
	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	40
		1年			
	地球の生いたち 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	地球の生いたち 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	くらしと化学 閉講	1学期	1	2	
		1年			
くらしと化学 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代人のこころ 税田 慶昭 他	1学期	1	2	41	
	1年				
数のたのしみ 閉講		1	2		
	1年				
私たちと宗教 閉講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	思想と現代	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	思想と現代	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	ものがたりと人間		1	2	
	閉講	1年			
	文化と表象	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	言語とコミュニケーション	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	芸術と人間	2学期	1	2	42
	真武 真喜子	1年			
	文学を読む	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	文学を読む	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	戦争と人間		1	2	
	閉講	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	43
	重松 博之	1年			
民主主義とは何か	2学期	1	2	44	
中井 遼	1年				
民主主義とは何か	1学期	1	2	45	
中井 遼	1年				
人権論	1学期	1	2	46	
柳井 美枝	1年				
ジェンダー論	1学期	1	2	47	
高木 駿	1年				
障がい学	1学期	1	2	48	
伊野 憲治	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	共生の作法	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	共生の作法	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	北九州学	2学期	1	2	49
	日高 京子 他	1年			
	市民活動論	2学期	1	2	50
	西田 心平	1年			
	企業と社会	1学期	1	2	51
	山下 剛	1年			
	つながりの人間学	1学期	1	2	52
	石川 敬之	1年			
	現代社会と倫理	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	現代社会と倫理	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	現代社会の諸問題	1学期	1	2	
	休講	1年			
	現代の国際情勢	1学期	1	2	53
	篠崎 香織 他	1年			
国際社会論	1学期	1	2		
閉講	1年				
国際紛争と国連	2学期	1	2		
閉講	1年				
国際紛争と国連	2学期	1	2		
閉講	1年				
民族・エスニシティ問題	1学期	1	2		
閉講	1年				
開発と統治	2学期	1	2		
閉講	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	グローバル化する経済 魏 芳 他	1学期	1	2	54
		1年			
	テロリズム論 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文 他	2学期	1	2	55
		1年			
	歴史の読み方I 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	歴史の読み方II 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	そのとき世界は 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	戦後の日本経済 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	都市と農村の生活文化史 閉講		1	2	
		1年			
	ものと人間の歴史 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 閉講	1学期	1	2	
		1年			
教養特講I 休講	2学期	1	2		
	1年				
教養特講II ( 現代社会とエシカル消費 ) 休講	1学期	1	2		
	1年				
教養特講III 休講	1学期	1	2		
	1年				
教養特講IV 休講	2学期	1	2		
	1年				
■教職関連科目	日本史 加藤 絢子	1学期	1	2	56
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	西洋史 晴谷 憲洋	1学期	1	2	57
		1年			
	東洋史 植松 慎悟	2学期	1	2	58
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	59
		1年			
	人文地理学 美谷 薫	2学期	1	2	60
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	61
		1年			
	地誌学 美谷 薫	2学期	1	2	62
		1年			
倫理学 休講	2学期	1	2		
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	63
		1年			
	情報表現 閉講	2学期	2	2	
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I ( 律政群 1-G ) 伊藤 晃	1学期	1	1	64
		律政群 1 - G			
	英語I ( 律政群 1-H ) 木梨 安子	1学期	1	1	65
		律政群 1 - H			
	英語I ( 律政群 1-I ) 下條 かおり	1学期	1	1	66
		律政群 1 - I			
英語II ( 律政群 1-H ) 相原 信彦	2学期	1	1	67	
	律政群 1 - H				
英語II ( 律政群 1-I ) 木梨 安子	2学期	1	1	68	
	律政群 1 - I				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III ( 律政群 1-H ) マーニー・セイテイ	1学期	1	1	69
		律政群 1 - H			
	英語III ( 律政群 1-I ) ジェイムズ・ヒックス	1学期	1	1	70
		律政群 1 - I			
	英語 IV ( 律政群 1-H ) ケネス・ギブソン	2学期	1	1	71
		律政群 1 - H			
	英語IV ( 律政群 1-I ) マーニー・セイテイ	2学期	1	1	72
		律政群 1 - I			
	英語V ( 律政群 2-E ) 大塚 由美子	1学期	2	1	73
		律政群 2 - E			
	英語V ( 律政群 2-F ) 安丸 雅子	1学期	2	1	74
		律政群 2 - F			
	英語V ( 律政群 2-G ) 船方 浩子	1学期	2	1	75
		律政群 2 - G			
	英語VI ( 律政群 2-F ) 船方 浩子	2学期	2	1	76
		律政群 2 - F			
	英語VI ( 律政群 2-G ) 酒井 秀子	2学期	2	1	77
		律政群 2 - G			
	英語VII ( 律政群 2-F ) クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	78
		律政群 2 - F			
英語VII ( 律政群 2-G ) ロバート・マーフィ	1学期	2	1	79	
	律政群 2 - G				
英語VIII ( 律政群 2-F ) 百武 玉恵	2学期	2	1	80	
	律政群 2 - F				
英語VIII ( 律政群 2-G ) 薬師寺 元子	2学期	2	1	81	
	律政群 2 - G				
英語IX ( 英中国済営比人律政 3年 ) 伊藤 晃	1学期	3	1	82	
	英中国済営比人律政 3年				
英語X ( 英中国済営比人律政 3年 ) 杉山 智子	2学期	3	1	83	
	英中国済営比人律政 3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語XI ( 英中国済営比人律政 3年 ) ロバート・マーフィ	1学期	3	1	84
		英中国済営比人律政 3年			
	英語XII ( 英中国済営比人律政 3年 ) デビット・ニール・マクレラン	2学期	3	1	85
		英中国済営比人律政 3年			
■第二外国語	中国語I ( 1 - a ) 野村 和代	1学期	1	1	86
		済営人律政群 1年			
	中国語I ( 1 - b ) 板谷 俊生	1学期	1	1	87
		済営人律政群 1年			
	中国語II ( 1 - a ) 野村 和代	2学期	1	1	88
		済営人律政群 1年			
	中国語II ( 1 - b ) 板谷 俊生	2学期	1	1	89
		済営人律政群 1年			
	中国語III ( 1 - a ) 艾文婷	1学期	1	1	90
		済営人律政群 1年			
	中国語III ( 1 - b ) 于 佳	1学期	1	1	91
		済営人律政群 1年			
	中国語IV ( 1 - a ) 艾文婷	2学期	1	1	92
		済営人律政群 1年			
	中国語IV ( 1 - b ) 于 佳	2学期	1	1	93
		済営人律政群 1年			
中国語V 有働 彰子	1学期	2	1	94	
	英済営人律政群 2年				
中国語VI 有働 彰子	2学期	2	1	95	
	英済営人律政群 2年				
中国語VII 未定	1学期	2	1	96	
	英済営人律政群 2年				
中国語VIII 未定	2学期	2	1	97	
	英済営人律政群 2年				
朝鮮語I ( 1 - a ) 呉 香善	1学期	1	1	98	
	済営律政群 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語I ( 1 - b ) 金 京姫	1学期	1	1	99
		済営律政群 1年			
	朝鮮語II ( 1 - a ) 金 慶湖	2学期	1	1	100
		済営律政群 1年			
	朝鮮語II ( 1 - b ) 金 京姫	2学期	1	1	101
		済営律政群 1年			
	朝鮮語III ( 1 - a ) 金 光子	1学期	1	1	102
		済営律政群 1年			
	朝鮮語III ( 1 - b ) 吳 珠熙	1学期	1	1	103
		済営律政群 1年			
	朝鮮語IV ( 1 - a ) 金 光子	2学期	1	1	104
		済営律政群 1年			
	朝鮮語IV ( 1 - b ) 吳 珠熙	2学期	1	1	105
		済営律政群 1年			
	朝鮮語V 安 滯珠	1学期	2	1	106
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VI 安 滯珠	2学期	2	1	107
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VII 金 惠媛	1学期	2	1	108
		済営比人律政群 2年			
朝鮮語VIII 金 惠媛	2学期	2	1	109	
	済営比人律政群 2年				
ドイツ語I 古賀 正之	1学期	1	1	110	
	済営人律政 1年				
ドイツ語II 古賀 正之	2学期	1	1	111	
	済営人律政 1年				
ドイツ語III 山下 哲雄	1学期	1	1	112	
	済営人律政 1年				
ドイツ語IV 山下 哲雄	2学期	1	1	113	
	済営人律政 1年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語V	山下 哲雄	1学期	2	1	114
			英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VI	山下 哲雄	2学期	2	1	115
			英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VII	山下 哲雄	1学期	2	1	116
			英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII	山下 哲雄	2学期	2	1	117
			英中国済営比人律政 2年			
	フランス語I	山下 広一	1学期	1	1	118
			済営人律政 1年			
	フランス語II	山下 広一	2学期	1	1	119
			済営人律政 1年			
	フランス語III	中川 裕二	1学期	1	1	120
			済営人律政 1年			
	フランス語IV	中川 裕二	2学期	1	1	121
			済営人律政 1年			
	フランス語V	小野 菜都美	1学期	2	1	122
			英中国済営比人律政 2年			
	フランス語VI	小野 菜都美	2学期	2	1	123
			英中国済営比人律政 2年			
フランス語VII	小野 菜都美	1学期	2	1	124	
		英中国済営比人律政 2年				
フランス語VIII	小野 菜都美	2学期	2	1	125	
		英中国済営比人律政 2年				
スペイン語I	宮城 志帆	1学期	1	1	126	
		中国済営人律政 1年				
スペイン語II	宮城 志帆	2学期	1	1	127	
		中国済営人律政 1年				
スペイン語III	辻 博子	1学期	1	1	128	
		中国済営人律政 1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語Ⅳ	2学期	1	1	129
	辻 博子	中国済営人律政 1年			
	スペイン語Ⅴ	1学期	2	1	130
	青木 文夫	英中国済営比人律政 2年			
	スペイン語Ⅵ	2学期	2	1	131
	青木 文夫	英中国済営比人律政 2年			
	スペイン語Ⅶ	1学期	2	1	132
	辻 博子	英中国済営比人律政 2年			
	スペイン語Ⅷ	2学期	2	1	133
	辻 博子	英中国済営比人律政 2年			
■専門教育科目 ■選択科目	日本法制史	2学期 (ペア)	2	4	
	休講	2年			
	情報公開・個人情報保護法	1学期	3	2	
	休講	3年			
	国際政治経済論I	1学期	2	2	
	休講	2年			
	民族と国家	1学期	2	2	
	休講	2年			
	アジア地域統合論	2学期	2	2	
	休講	2年			
	東アジア経済論	2学期	2	2	
	休講	2年			
	財政学I	1学期	3	2	
	休講	3年			
財政学II	2学期	3	2		
休講	3年				
都市財政II	2学期	3	2		
休講	3年				
コーポレートガバナンス	2学期	3	2		
休講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策入門演習I	1学期	1	2	
	休講	1年			
	政策入門演習I	1学期	1	2	
	休講	1年			
	政策入門演習II		1	2	
	休講	1年			
	演習I		3	2	
	休講	3年			
	演習I		3	2	
	休講	3年			
	演習I		3	2	
	休講	3年			
	演習I		3	2	
	休講	3年			
	演習I		3	2	
	休講	3年			
	演習I		3	2	
	休講	3年			
	演習II		3	2	
	休講	3年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	演習II		3	2	
	休講	3年			
	演習II		3	2	
	休講	3年			
	演習II		3	2	
	休講	3年			
	演習II		3	2	
	休講	3年			
	演習II		3	2	
	休講	3年			
	演習II		3	2	
	休講	3年			
	演習II		3	2	
	休講	3年			
	演習II		3	2	
	休講	3年			
	演習II		3	2	
	休講	3年			
	演習III		4	2	
	休講	4年			
演習III		4	2		
休講	4年				
演習III		4	2		
休講	4年				
演習III		4	2		
休講	4年				
演習III		4	2		
休講	4年				



科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	演習Ⅳ		4	2	
	休講	4年			
	演習Ⅳ		4	2	
	休講	4年			
	政策実践プロジェクトⅠ		3	1	
	休講	3年			
	政策実践プロジェクトⅠ		3	1	
	休講	3年			
	政策実践プロジェクトⅠ		3	1	
	休講	3年			
	政策実践プロジェクトⅠ		3	1	
	休講	3年			
	政策実践プロジェクトⅠ		3	1	
	休講	3年			
	政策実践プロジェクトⅠ		3	1	
	休講	3年			
	政策実践プロジェクトⅡ		4	1	
	休講	4年			
	政策実践プロジェクトⅡ		4	1	
	休講	4年			
政策実践プロジェクトⅡ		4	1		
休講	4年				
政策実践プロジェクトⅡ		4	1		
休講	4年				

法学部 政策科学科 ( 2012年度入学生 )

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策実践プロジェクトII		4	1	
	休講	4年			
	政策実践プロジェクトII		4	1	
	休講	4年			
	政策実践プロジェクトII		4	1	
	休講	4年			
■政策理論科目	外国文献研究A	1学期	3	2	
	休講	3年			
	比較政策論	1学期	2	2	
	休講	2年			
■政策実践科目	政策実践特講	集中	2	2	
	休講	2年			
■政策関連法科目	地方自治法	1学期 (ペア)	3	4	
	休講	3年			
	債権各論	2学期 (ペア)	2	4	
	休講	2年			
■自由科目	Advanced Reading and Discussion	2学期	3	2	
	休講	3年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	134
		2年			
	生活世界の哲学 高木 駿	1学期	1	2	135
		1年			
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	2学期	1	2	136
		1年			
	メンタル・ヘルスII 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	社会調査 閉講	2学期	1	2	
		1年			
■テーマ科目	地球の生いたち 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	自然史へのいざない 日高 京子 他	2学期	1	2	137
		1年			
	現代人のこころ 福田 恭介	1学期	1	2	138
		1年			
	思想と現代 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文学を読む 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	139
		1年			
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	140
		1年			
	企業と社会 休講	1学期	1	2	
		1年			
	現代社会と倫理 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	国際社会論 閉講	1学期	1	2	
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際紛争と国連	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	開発と統治	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	国際社会と日本	2学期	1	2	141
	中野 博文 他	1年			
	歴史の読み方I	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	歴史の読み方II	1学期	1	2	
	閉講	1年			
そのとき世界は	2学期	1	2		
閉講	1年				
人物と時代の歴史	1学期	1	2		
閉講	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング	2学期	1	2	142
	中尾 泰士	1年			
	データ処理	1学期	1	2	143
廣渡 栄寿	1年				
情報表現	2学期	2	2		
閉講	2年				
■専門教育科目 ■選択科目	日本法制史		2	4	
	休講	2年			
	法哲学		3	2	
	休講	3年			
	情報公開・個人情報保護法		3	2	
	休講	3年			
刑法犯罪各論I		2	2		
休講	2年				
刑法犯罪各論II		2	2		
休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	犯罪学		3	4	
	休講	3年			
	刑事司法政策I		3	2	
	休講	3年			
	刑事司法政策II		3	2	
	休講	3年			
	環境法		3	2	
	休講	3年			
	社会法の現代的展開		3	2	
	休講	3年			
	現代国際関係法		3	2	
	休講	3年			
	家族法		2	2	
	休講	2年			
	企業活動と法		2	2	
	休講	2年			
	ビジネス英語研究		3	2	
	休講	3年			
	国際政治経済論I		2	2	
	休講	2年			
国際政治経済論II		2	2		
休講	2年				
国際機構論I		2	2		
休講	2年				
国際機構論II		2	2		
休講	2年				
国際協力論I		2	2		
休講	2年				
国際協力論II		2	2		
休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■選択科目	地球環境論		2	2	2年	
	休講					
	民族と国家		2	2	2年	
	休講					
	アジア地域統合論		2	2	2年	
	休講					
	東アジア経済論		2	2	2年	
	休講					
	産業組織論I		2	2	2年	
	休講					
	産業組織論II		2	2	2年	
	休講					
	経済地理学I		1学期	2	2	2年
	休講					
	経済地理学II		2学期	2	2	2年
	休講					
	地域政策			2	2	2年
	休講					
	環境経済学		2学期	3	2	3年
	休講					
公共経済学			3	2	3年	
休講						
中国経済			3	2	3年	
休講						
アメリカ経済			3	2	3年	
休講						
都市財政I			3	2	3年	
休講						
都市財政II			3	2	3年	
休講						

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目	経営組織論		2	2	
	休講	2年			
	人事管理論		2	2	
	休講	2年			
	中小企業論	1学期	3	2	
	休講	3年			
	コーポレートガバナンス		3	2	
	休講	3年			
■政策能力形成科目	政策入門演習I		1	2	
	休講	1年			
	政策入門演習II		1	2	
	休講	1年			
	演習I		3	2	
	休講	3年			
	演習II		3	2	
	休講	3年			
政策実践プロジェクトI		3	1		
休講	3年				
■政策理論科目	政策科学入門		1	2	
	休講	1年			
■政策理論科目	政策構想論		1	2	
	休講	1年			
	政策過程論		2	2	
	休講	2年			
	政策評価論		2	2	
	休講	2年			
	政策情報処理		2	2	
	休講	2年			
政策調査論		2	2		
休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策理論科目	地方自治論	1学期	2	2	2年
	休講				
	福祉国家論		1	2	1年
	休講				
	政治学		1	2	1年
	休講				
	政治過程論		1	2	1年
	休講				
	西洋政治史		1	2	1年
	休講				
	現代政治思想		2	2	2年
	休講				
	政治文化論		2	2	2年
	休講				
	政党政治論		2	2	2年
休講					
都市計画概論		2	2	2年	
休講					
外国文献研究A		3	2	3年	
休講					
政策理論特講		2	2	2年	
休講					
行政組織論		2	2	2年	
休講					
比較政策論		2	2	2年	
休講					
■政策実践科目	都市政策論		2	2	2年
	休講				
	福祉政策論	1学期	2	2	2年
	休講				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■政策実践科目	環境政策論		2	2	2年	
	休講					
	自治体政策研究		2	2	2年	
	休講					
	都市経済論		1	2	1年	
	休講					
	都市経営論		2	2	2年	
	休講					
	地方行政改革論		2	2	2年	
	休講					
	日本政治論		1	2	1年	
	休講					
	日本行政論		1	2	1年	
	休講					
	公共経営論		2	2	2年	
	休講					
	NPO論		1学期	1	2	1年
	休講					
	途上国開発論		2	2	2年	
	休講					
地域統合論		2	2	2年		
休講						
アジア地域社会論		2	2	2年		
休講						
外国文献研究B		3	2	3年		
休講						
応用政策特講		2	2	2年		
休講						
政策実務特講		2	2	2年		
休講						

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策実践科目	政策実践特講		2	2	
	休講	2年			
	対外政策論		2	2	
	休講	2年			
■政策関連法科目	法思想史		2	2	
	休講	2年			
	法社会学		2	2	
	休講	2年			
	憲法人権論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	憲法機構論		2	2	
	休講	2年			
	憲法訴訟論		2	2	
	休講	2年			
	行政法総論	1学期 (ペア)	2	4	
	休講	2年			
	行政争訟法		2	2	
	休講	2年			
	国家補償法		3	2	
	休講	3年			
	地方自治法		3	4	
	休講	3年			
	刑法犯罪論		1	4	
	休講	1年			
社会法総論	2学期	1	2		
休講	1年				
社会サービス法		2	2		
休講	2年				
所得保障法		2	2		
休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■政策関連法科目	雇用関係法		2	2	2年
	休講				
	労使関係法		2	2	2年
	休講				
	国際法I		2	2	2年
	休講				
	国際法II		2	2	2年
	休講				
	民法総則		1	4	1年
	休講				
物権法		1	2	1年	
休講					
債権総論		2	4	2年	
休講					
債権各論		2学期 (ペア)	2	4	2年
休講					
■自由科目	人間環境地理学		2	2	2年
	休講				
	日本の歴史と社会		2	2	2年
	休講				
	生態人類学		2	2	2年
	休講				
	上級英語I		3	2	3年
休講					
上級英語II		3	2	3年	
休講					
Advanced Reading and Discussion		3	2	3年	
休講					

# 歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 藤田 俊 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

### ・ 本授業の到達目標

- 「知識」  
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」  
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」  
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジюме・画像・映像等を使用します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史・「史実」・歴史学
- 第2回 第一次世界大戦ー「新しい戦争」の衝撃と影響
- 第3回 白虹事件と関東大震災ー「中立」化する言論、台頭する「世論」
- 第4回 政治の大衆化ー二大政党制と劇場型政治
- 第5回 軍事の大衆化ー戦争にまつわる文化、娯楽、記憶
- 第6回 北伐と革命外交ー1920年代の日中関係
- 第7回 ロンドン海軍縮小会議ー「統帥権干犯」をめぐる政治とメディア
- 第8回 満洲事変ー「生命線」としての満蒙権益と「熱狂」の創出
- 第9回 政党内閣の崩壊ー「協力内閣」運動と五・一五事件
- 第10回 昭和陸軍と二・二六事件
- 第11回 日中戦争の諸相ー謀略と和平工作
- 第12回 第二次欧州大戦と日本
- 第13回 新体制運動
- 第14回 日米開戦への道
- 第15回 太平洋戦争の終結と「聖断」

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%  
なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジюме等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回、受講者から事前に提出された課題から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入として広義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

なお、本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。

(到達目標)

【知識】異文化を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】異文化理解に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、異文化理解に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

教科書はありません。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画(有料動画の場合もあります)を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します)。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 レポートの書き方と課題レポート①の説明

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 さまざまな信仰心

第12回 宗教と近代化

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

# 人間と文化【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(2回)60%、毎回の授業課題 40%  
※毎回の授業課題は、提出時期や授業への貢献によって得点が変わります。  
※一度も課題提出がない場合は評価不能(一)です。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの予習・復習のための課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)などの関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 詳しい評価方法や電子書籍の閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ オンデマンド配信となるので、時間割通りに受講する必要はありません。ですが、毎週課題があり、その課題は提出時期によって満点が異なります。計画的に受講しましょう。
- ・ 本講義で養われる「コミュニケーション能力」は、今後の実践の機会に向けた考え方を身に着けることを目指しています。授業では、記述を通じたコミュニケーションを実践する機会がありますが、発話を通じた実践機会はないので注意してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、必要な時に努力すればおそらく入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

## キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

# ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

### [到達目標]

- DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。
- DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

## 教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700 + 税。  
 配布資料・その他授業中に指示

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読  
 事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

## 履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際学入門【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

(到達目標)

【知識】現代の国際社会で生起する様々な問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】現代の国際社会で生起する諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】現代の国際社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点(人間関係)【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。  
レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に関しては一評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

# 可能性としての歴史【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、本来はタブーとされる「歴史のif」に注目し、近代日本の政策決定に参画した政治家・官僚・軍人等の行動とその背景や動機に迫り、歴史とは別の選択肢が存在したのか、存在していたとすれば、異なる選択をした日本はいかなる道を歩んでいたのかについて考えていきます。講義の中で「あり得たかもしれない歴史」を考察することを通して、予測困難で不透明な未来を考える思考力の涵養を目指します。

### ・ 本授業の到達目標

- 「知識」  
→歴史的過去の可能性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」  
→歴史的過去の可能性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」  
→歴史的過去の可能性を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学とは何か
- 第2回 歴史学にとっての「もしも・・・」
- 第3回 この国のかたち—近代日本の国家構想
- 第4回 国民—「日本人」の形成
- 第5回 言語—「共通語」の創成
- 第6回 国土—変動する「国境」
- 第7回 首都—東京以外の選択肢
- 第8回 学校—戦前期日本の教育と「学歴」
- 第9回 軍隊—徴兵制と通過儀礼、兵営と地域社会、前線と銃後
- 第10回 日中関係—和平の可能性
- 第11回 日米開戦— the Point of No Return はどこだったのか
- 第12回 原爆投下—マンハッタン計画、軍都小倉、本土決戦
- 第13回 敗戦と占領—異世界型「戦後日本」
- 第14回 天皇制—「象徴」の起源
- 第15回 まとめ—「可能性」としての歴史

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%  
なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通して下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画(有料動画の場合もあります)を見に行くように指示することもあるため、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します)。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第1部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化とその認識

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ

第9回 移動する人々と世界

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 癒しの多様性

第15回 中間テストの解説と授業の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストおよびそのほか課題 40%、期末テスト 60%

※課題の提出など、加点の対象となる活動が全くない場合は評価不能(一)です。

※受講人数、感染状況によってはテストがレポートになる可能性があります。

# 文化と政治【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ この授業は中間テストほか学期中にさまざまな課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

## キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、植民地主義、グローバリゼーション、近代、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

# 言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科  
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター  
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力

言語と認知、コミュニケーションの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(授業形態)

メディア授業（学習マネジメントシステムMoodleによる遠隔授業（オンデマンド））

受講に必要な機器：パーソナルコンピューター、インターネット接続・通信に必要な環境（WiFi、光ファイバー等）

## 教科書 /Textbooks

Moodle上の配布資料

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序・授業の進め方・担当者紹介（漆原・全員）
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか（言語習得）（漆原）
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか（言語脳内処理・失文法）（漆原）
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程（税田）
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション（税田）
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援（税田）
- 第7回 脳と心のなりたち（脳のはたらきを支配する遺伝子）（日高）
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか（言語と遺伝子）（日高）
- 第9回 ヒューマンエラー（松田）
- 第10回 アフォーダンスとシグニファイアー（松田）
- 第11回 モノの見方と言語表現（認知意味論）（木山）
- 第12回 比喩は文学表現か（メタファー）（木山）
- 第13回 文は語彙の足し算か（構文文法論）（木山）
- 第14回 ことばとジェンダー（漆原）
- 第15回 まとめ：担当者からの課題の講評など（全員）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% （最終）課題 16% × 5 = 80%

すべての教員の（最終）課題を提出しない限り評価不能（－）となります。

なお、各回の確認クイズ・小課題が最終課題に含まれるかどうかは各担当教員によって異なります。

各担当教員の説明にしてください。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネイターが指示した文献等の講読

事後学習：担当教員ごとの確認クイズ・小課題・レポート等の提出

## 履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。

\* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていききたい。

(到達目標)

【知識】共生社会の成立を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】共生社会の成立に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、共生社会に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴(医療モデル的作品)【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴(文化モデル的作品)【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。  
レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に対しては一評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

## 履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

# 戦争と平和【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

### 到達目標

【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。適宜指示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45～60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

## 成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。

小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈ないように、動画内容を工夫したいと思います。

# 戦争と平和 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ビジョン科目

キーワード /Keywords

# 生活世界の哲学【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こちらは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

### 【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ ○プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- ・ 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- ・ S. サリー『ジユデイス・バトラー』, 青土社
- ・ 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- ・ ○植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- ・ 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

\* 授業中にもご紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：(プラトン、アリストテレス)
- 第3回 【古代】共同体って何？①：(プラトン、アリストテレス)
- 第4回 【中世】人間って何？②：(アウグスティヌス)
- 第5回 【中世】共同体って何？②：(アウグスティヌス)
- 第6回 【近代】共同体って何？③：(ホッブズ、ロック、ルソー)
- 第7回 【近代】人間って何？③：(カント)
- 第8回 【近代】資本主義って何？(マルクス)
- 第9回 【現代】公共性って何？(ハーバーマス)
- 第10回 【現代】正義って何？(ロールズ)
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

\* ( ) の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

\* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能( - )となります。

\* 確認テストを受験しない場合も、評価不能( - )となります。

# 生活世界の哲学【昼】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

## 履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

## キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

# メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

なお、授業は遠隔（オンデマンド）授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

【自律的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じ紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第5回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第6回 精神と行動の異変(1)【精神疾患】
- 第7回 映画から見るメンタルヘルス
- 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ・小テスト

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 50% 日常の授業への取り組み(課題の提出) 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 小テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業内で出した課題をMoode上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

## 履修上の注意 /Remarks

授業は遠隔（オンデマンド）授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

# メンタル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
スキル科目  
ライフ・スキル

## キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健福祉学

# フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%  
 欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

# フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

### 到達目標

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%  
 4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実技)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の手配を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目  
 教養教育科目  
 スキル科目  
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 豊田 直樹 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) 生涯スポーツ①(バドミントン)
- 10回 (実習) 生涯スポーツ②(アルティメット)
- 11回 (実習) 生涯スポーツ③(卓球)
- 12回 (講義) 身体活動と生活習慣病
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。\* 実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる(得意)、できない(不得意)などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

# フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目  
 教養教育科目  
 スキル科目  
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。\* 実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる(得意)、できない(不得意)などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

# フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%  
 欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

# フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

### 到達目標

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%  
 4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実技)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の手紙を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor	日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室											
履修年次 1年次 /Year	単位 2単位 /Credits	学期 1学期 /Semester	授業形態 講義 /Class Format	クラス 1年 /Class								
対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心して暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらい、以下の習得をめざす。

### 到達目標

【自律的行動力】自分自身の生活に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（基盤教育セ・日高）
- 2回 社会人のマナー（地域連携・木村）
- 3回 身体の健康（保健室看護師）
- 4回 心の健康（相談室・臨床心理士）
- 5回 スポーツと健康（基盤教育セ・山本）
- 6回 災害への備え（基盤教育セ・村江）
- 7回 自転車の交通安全（課題研究）
- 8回 犯罪防止・薬物乱用防止（小倉南警察署・市民文化スポーツ局）
- 9回 消防と救急（消防局予防課・救急課）
- 10回 ブラックバイト（福岡労働局雇用環境）
- 11回 消費者トラブル（消費生活センター）
- 12回 大学生とお金（福岡県金融広報委員会）
- 13回 ハラスメント防止（総務局男女共同参画推進課）
- 14回 市民生活の基本（行政委員会・市民文化スポーツ局・総務課）
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業ごとの課題（確認テスト、ミニレポート等）70%
  - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等）20%
  - ・ 期末レポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始前までに予め授業テーマについて学習しておくこと。
- ・ 終了後には、授業中に学んだことを振り返り、ミニレポートを締め切りに間に合うように提出すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。  
 毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

## キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

SDG3 健康と福祉を, SDG5 ジェンダー平等, SDG8 働きがい・経済成長, SDG11 まちづくり, SDG13 気候変動対策

# キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

大学生生活をより充実させるものにするための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いてもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。

- ①社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
- ②将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく

授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話を頂きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

※この授業はメディア授業(オンデマンド方式)で実施します。Moodle上にコンテンツを提示します。履修方法については第1回目の授業コンテンツで説明をしますので、必ず見てください。

(到達目標)

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①全体ガイダンス
- ②学びのアップデート
- ③日本の「キャリアデザイン」
- ④日本が迎える大きな変化
- ⑤情報革命
- ⑥日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
- ⑦中間振り返り
- ⑧お金と情報
- ⑨ビジネスと就活
- ⑩もう一つのキャリアデザイン
- ⑪「働き方」の最新事情
- ⑫日本の潮流、世界の潮流
- ⑬誰もが持つリーダーシップを知る
- ⑭キャリアデザイン全体を総括する
- ⑮全体振り返り

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%

授業内のレポート...20%

まとめのレポート...20%

※授業内レポート、まとめレポートを1度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの生除く。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

## 履修上の注意 /Remarks

授業への積極かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

## キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

### ★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

# キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて「いま何をすべきか」ということを考える授業を行います。皆さんの将来は独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは、皆さんのキャリアに直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。

本授業では、ゲストスピーカーによる講演会も数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができます。また様々な資料(映像・新聞記事・映画・webなど)を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア(人生デザイン)は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

(到達目標)

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業内で適宜お伝えします。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス キャリアデザインとは
- 第2回 キャリアデザインと大学生活
- 第3回 日本の大学生の姿を通じて
- 第4回 大学生生活の落とし穴とその回避のために
- 第5回 来たるべき未来と皆さんのキャリアデザイン
- 第6回 自分を知る
- 第7回 キャリアは「デザイン」できるのか?
- 第8回 留学とキャリアデザイン
- 第9回 これからの働き方
- 第10回 就職とキャリアデザイン
- 第11回 自分の新たな扉を開く
- 第12回 「幸せ」な人生とは?
- 第13回 作品に学ぶキャリアデザイン
- 第14回 先輩からのメッセージ
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業で課すレポートにより評価(100%)  
 レポートとしての体裁を成していない場合は、また内容や分量に著しい不備がある場合は評価不能(-)とします

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。  
 また、本授業は「答え」のない授業です。各回の授業が終わった後は、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください(自習時間の目安は60分程度)。

## 履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

# キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
スキル科目  
キャリア・スキル

## キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

SDGsとの関連について

3. 健康と福祉を 5. ジェンダー平等 8. 働きがい・経済成長

# キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

### <目的>

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」……。具体的には大学生の本分である学びの深堀、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・入職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

### <進め方>

- ①一つ前の授業での学びを授業開始までに実践し、振り返っておく。
- ②授業開始前に「大福帳」を入手し、指定された席に着席する（毎回グループはシャッフルされます）。
- ③授業の冒頭に、実践と振り返りを「大福帳」に記述する。
- ④冒頭のグループワークで、先週の課題の実践と振り返りを発表し、共有する。
- ⑤講義
- ⑥授業終了後、大福帳を提出する。
- ⑦次週までに授業での学びを実践しておく。

以上のように、授業での学び実践し、振り返り、メンバーで共有することを繰り返します。授業の内容は第12回「オタクと心理的安全性」以外はすべて教科書「新しいキャリアデザイン」に書かれていますので、該当するページ（数ページです）を授業前に一読しておいてください（第12回のみMoodleに資料をアップしておきます）。

### <目標>

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。よって、本授業の成績は「経験学習モデル」を体得できたかが基本となります。それぞれの授業で提示された課題を実践し、そこからの学びをルーブリックと照らし合わせて採点します。

（到達目標）【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会（税込1,980円）

# キャリア・デザイン 【昼】

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 渡辺三枝子『新版 キャリアの心理学【第2版】-キャリア支援への発達のアプローチ-』ナカニシヤ出版
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.克蘭ボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- ポール・R・ドーアティほか『HUMAN+MACHINE 人間+マシン: AI時代の8つの融合スキル』東洋経済新報社
- ジェームズ・E・コテほか『若者のアイデンティティ形成-学校から仕事へのトランジションを切り抜ける』東信堂
- 日向野幹也『高校生からのリーダーシップ入門』筑摩書房
- 松尾睦『職場が生きる人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- ジェームズ W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- エリン・メイヤー『異文化理解力-相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』英治出版
- 安斎勇樹ほか『問いのデザイン: 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- エイミー・C・エドモンドソン『恐れのない組織-「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』英治出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・アイデンティティ資本
- 2回 経験から学ぶ力
- 3回 マインドセットとグリット
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 ロジカルシンキング
- 8回 問いを立てる力
- 9回 クリエイティブシンキング
- 10回 デジタルトランスフォーメーション
- 11回 新しい企業団体研究
- 12回 オタクと心理的安全性
- 13回 異文化理解力
- 14回 計画された偶発性
- 15回 自らのキャリアをデザインする

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(学びの実践レポート)・・・70%  
最終レポート・・・30%  
採点対象のレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> 授業での学びを次の授業までに実践し、言語化しておいてください。  
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

## 履修上の注意 /Remarks

<基本事項>  
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。  
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくはほかの教員の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。  
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

<履修者調整について>  
※ソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は1年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ2年生以上も受講できます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになりました。また、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「心が震える瞬間」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊かにする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさん学生の履修をお待ちしてお

# キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
スキル科目  
キャリア・スキル

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ります。

## キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決  
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全  
実務経験のある教員による授業

# プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所  
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立ち頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。

### <進め方>

- ① 授業が始まる前に講演者の企業団体および仕事について、各団体のwebサイトの読み込みはもちろん、図書館所蔵の書籍や雑誌、新聞などを予習して、質問を用意しておきます。
- ② 授業開始後、指定する席に着席し、グループで本日、特にどんなことを知りたいのかについて議論し、講演者に発表します。
- ③ 講演が始まります。第1セッションは「コロナ禍の影響を踏まえた、事業内容」。終了後、質疑応答の時間を作ります。以下、第2セッション「どんな仕事で、やりがいは何か?」、第3セッション「学生時代の何が、今に繋がっているか?」と続き、すべて質疑応答の時間を取ります。
- ④ ラストメッセージのあと、得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大學生生活を過ごせば良いかを理解します。

(到達目標) 【自律的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。パワーポイントは後日頂いて、Moodleにアップしておきます。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

登壇する企業団体にまつわる記事などが載っている書籍や雑誌、新聞を図書館で探して読んでください。

例：日経ビジネス、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、日経MJなど。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です(敬称略・順不同)。

<2021年度> Men Impossible (オランダのラーメン屋)、SALASUSU、リ・インベンション、井上純子氏(北九州市議会議員)、タカギ、ベンシル、ETIC.、サイバーエージェント、日本放送協会、ソニーコンシューマーセールス、アクセンチュア、九州大学出版会、パデコ、スノーピーク

<2020年度> TOTOインフォム、タカギ、日本航空(JAL)、福岡出入国在留管理局、LINE Fukuoka、日本放送協会(NHK)、春日井製菓、杉養蜂園、JR博多シティ、アクセンチュア、田村ビルズ、アイ・ケイ・ケイ、i-plug

<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドグヴ・ニーズ(T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ(teamLab)、労働基準監督官(厚生労働省)、カモ井加工紙(mt)、大創産業(ダイソー)、西日本旅客鉄道(JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸(ANA)、本田技研工業(HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(事前課題)・・・35%

毎回の授業での学び(振り返りレポート)・・・35%

最終レポート・・・30%

なお、採点対象の事前課題やレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> 登壇する企業団体への質問を用意してください。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメを読んでおいてください。

<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

## 履修上の注意 /Remarks

2022年度より、A101の大人数授業からC教室でのグループワーク主体の形式に変更していますのでご注意ください。さらにソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は2年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ3年生以上も受講できます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

## キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究  
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命  
実務経験のある教員による授業

# 法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor  
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科  
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科  
 高橋 衛 / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科  
 今泉 恵子 / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科  
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科  
 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科  
 林田 幸広 / 法律学科, 丸山 愛博 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

(到達目標)

- 【技能】法律の世界を正しく理解するために必要な技能を身につけている
- 【思考・判断・表現力】法的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている
- 【自律的行動力】社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自律的行動力を身につけることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

特になし。  
 毎回、必要な資料があれば配布する（事前にMoodleにアップロードされる場合もあるので確認すること）。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各種の法学入門書など。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 おからはゴミなのか、劇物を輸入規制しなくていいの？—行政法解釈入門
- 第3回 信じる者は救われる？—法治主義と信頼保護原則
- 第4回 自殺や自傷行為を止めさせると犯罪か？
- 第5回 高齢者の罪は許すべき？
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか？—AIと法
- 第7回 電気は「物」か？—物に関する法
- 第8回 契約とは何か？—約束と契約の違い・両者の限界等について
- 第9回 あなたを狙う投資マルチ—マルチ商法と消費者法
- 第10回 保険契約制度により自然災害等に対応できるか？
- 第11回 会社の存在意義は何か？
- 第12回 長時間労働はなぜ起きるのか？
- 第13回 自分の臓器を売る自由？—自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家—ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる ( 100% )。  
 期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能 ( - ) とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。  
 事前に資料等の配布がある場合は、授業前に目を通しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

SDG 3. 健康と福祉を、SDG 10. 不平等をなくす、SDG 16. 平和と公正

# フィジカル・エクササイズI ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修に関する諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム ( リーグ戦 )
- 15回 スキル獲得テスト③

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%  
 4回以上欠席した場合は評価不能 ( - ) とします。 \* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動 ( ストレッチや体操 ) を実施し、怪我防止に努めること ( ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する )。

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。  
 本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

# フィジカル・エクササイズI ( 外種目 ) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師  
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。\*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。

授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

テニスに関してはグラウンドの状況上「バドミントン」に変更の可能性があります。第1回ガイダンスで説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

# フィジカル・エクササイズI ( 女性のスポーツ ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
スキル科目  
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜授業内で紹介します

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(受講上の注意)
- 2回 体幹トレーニング(1)
- 3回 体幹トレーニング(2)
- 4回~7回 バレーボール(ソフトバレーボール)
- 8回~9回 選択種目(1) 【バドミントン】 【卓球】スキル確認テスト①
- 10回~11回 選択種目(2) 【バスケットボール】 【トレーニング】スキル確認テスト②
- 12回~13回 選択種目(3) 【バレーボール】 【バドミントン】スキル確認テスト③
- 14回 女性のためのエクササイズ(1)
- 15回 女性のためのエクササイズ(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%  
4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。\*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。  
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。  
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

# フィジカル・エクササイズI ( ソフトバレー / バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
 教養教育科目  
 スキル科目  
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%  
 4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。\*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

# フィジカル・エクササイズI ( バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
 教養教育科目  
 スキル科目  
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
 単位 /Credits 1単位  
 学期 /Semester 1学期  
 授業形態 /Class Format 実技  
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。\*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。

授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

# フィジカル・エクササイズII ( バスケットボール ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
スキル科目  
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

使用しない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%  
4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。\*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることを。

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修についての諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム ( リーグ戦 )
- 15回 スキル獲得テスト③

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%  
 4回以上欠席した場合は評価不能 ( - ) とします。 \* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 ( ストレッチや体操 ) を実施し、怪我防止に努めること ( ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する )。

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。  
 本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるように授業内容の工夫・設定を行っています。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

# フィジカル・エクササイズII ( ソフトバレー / バレーボール ) 【昼】

基盤教育科目  
 教養教育科目  
 スキル科目  
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%  
 4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。\*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。  
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。  
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。  
 男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

# フィジカル・エクササイズII ( 外種目 ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
スキル科目  
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。\*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。

授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

# フィジカル・エクササイズII ( 外種目 ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
スキル科目  
ラーニング・スキル

## キーワード /Keywords

テニス、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

# フィジカル・エクササイズII ( バドミントン ) 【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
スキル科目  
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 豊田 直樹 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション ( 授業の展開方法や履修に関する諸注意 )
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト ( ヘアピン・クリアー )
- 5回 基本的な打ち方とフライト ( ドロップ )
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム ( リーグ戦 )
- 15回 スキル獲得テスト③

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能 ( - ) とします。\* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 ( ストレッチや体操 ) を実施し、怪我防止に努めること ( ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する )。

## 履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

## キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

# 教養演習 AI ( 防衛セミナー ) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回（ゴールデンウィーク明けから）招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス ( 戸蒔 )
- 2回 日本の防衛と自衛隊 ( 戸蒔 )
- 3回 陸海空自衛隊について ( 戸蒔 )
- 4回 自衛隊の任務、総論 ( 戸蒔 )

5回～14回 自衛官の招聘、各論のレクチャー

現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する予定。

15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

※3回以上の無断欠席、レポート未提出の場合、いずれも「評価不能(-)」となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。  
 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

※授業の運営方法、評価方法、コロナ対応などについて、初回のガイダンスで詳しく話しますので、履修を希望する人は絶対に出席してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 教養演習 AI ( 発達障がいセミナー ) 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター  
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症（障害）を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

( 到達目標 )

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

その都度指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

その都度指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症（障害）とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史の変遷【歴史の変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本（1）障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本（2）構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本（3）コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析学的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本（4）行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本（5）自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本（6）余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加（貢献）度30%。  
 課題への対応70%。  
 出席が全くない受講者に対しては、一（評価不能）評価とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることに関しインターネット等で調べてくる。  
 事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

## 履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

SDGs 「3. 健康と福祉」 「16. 平和と公正」 「17. パートナリシップ」

# 教養演習 AI 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

### 到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

### 第15回 振り返り

## 成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 ( 100% )

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 ( - ) とします

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

## 履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

# 教養演習 AI 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。  
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。  
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、  
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。  
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（421Lab.）に来て、  
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。  
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

## キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、ゼミ形式で、ジェンダー論・フェミニズム論に関連する1冊の図書を通読していきます。図書は、研究書レベルのものになります。複数図書の候補を出しますので、参加者の興味関心で初回に決定したいと思います。なお、毎回1200字程度のレジюме作成が必須となり、課題の量が比較的多い授業となりますので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

### 【到達目標】

- 《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 《コミュニケーション力》他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 《技能》設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

初回のイントロダクションのなかで決定します。  
\* 教科書の価格は～4,000円ほどのものを予定しています。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション①：この授業について、課題図書の決定
- 第2回 イン트로ダクション②：レジюмеの作り方、進め方
- 第3回 演習
- 第4回 演習
- 第5回 演習
- 第6回 演習
- 第7回 演習
- 第8回 演習
- 第9回 授業の中間まとめ
- 第10回 演習
- 第11回 演習
- 第12回 演習
- 第13回 演習
- 第14回 演習
- 第15回 まとめ：レポートについて

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 各回のレジюме作成 100%
- \* レジюмеを4回以上提出しなかった場合は、評価不能 ( - ) となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- レジюмеの作成
- 前回範囲の復習

## 履修上の注意 /Remarks

- 初回は、授業全体の説明に加えて、課題図書を決定するので必ず参加してください。
- この授業では、毎回1200字程度のレジюмеの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多くなるので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みなさんと同じ本を読み、議論できることを楽しみにしています。

## キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 8. ジェンダー平等

# 教養演習 A II 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

### 到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

## 教科書 /Textbooks

適宜指示する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### 第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

### 第15回 振り返り

## 成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 ( 100% )

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 ( - ) とします

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

## 履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

## 教養演習 A II 【昼】

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。  
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。  
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、  
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。  
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（421Lab.）に来て、  
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。  
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

### キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

# 自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のまなざし」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

(達成目標) 双方向的な学びを楽しんで下さい。

### 【知識】

自然の営みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

### 【思考・判断・表現力】

自然の営みについての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

### 【自律的行動力】

自然の営みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### ■竹川

- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性

### ■岩松

- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

# 自然科学のまなざし【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

(竹川)

講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%  
講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%  
講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%

(岩松)

小レポート...25% 試験...25%  
・すべてのレポート(小論もふくむ)を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。  
講義は教室の中だけでは終わりません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、受講してください。  
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。  
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。  
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

## キーワード /Keywords

人類学  
環境学  
フィールドワーク

# 動物のみかた 【昼】

担当者名 到津の森公園、文学部 竹川大介  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。  
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

(到達目標)

【知識】

人間と動物の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

人間と動物の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】

人間と動物の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

テキストなし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらそう)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%  
・レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることで人間のことも考えてみましょう。  
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

## キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

# 現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科  
田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【科学としての心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【行動主義、客観性】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題（複数的小テストまたはレポート）・・・100%  
各担当教員の指定する課題を提出しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。  
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

## キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

# 芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係性を浮かび上がらせる。また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって拡がる同時代の動きにつなげてみる。毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会と芸術の関係性について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」  
美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒテキ アートダイバー 2014
- 「アート・パワー」現代企画室 ポリス・グロイス著 石田圭子ほか訳 2017
- 「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 高松次郎 存在/不在を見つめる芸術表現
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ 彫刻のあり方いろいろ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口啓介 原発に抗する
12. ヤノベケンジ 失われた遊園地
13. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻き込むプロジェクト
14. 会田誠 道程
15. Chim↑pom 世界を公共空間として認識すること

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題(2回)・・・50% 毎回moodle上で課題をあげます。15回のうち2回分を選んで回答を送ってください。  
レポート・・・40% 13-14回目の授業動画とmoodle アナウンスメントで出題します。学内メール添付で提出してください。  
日常の授業への取り組み(出欠、提出物の形式が的確かどうか)・・・10%  
課題2回とレポートの提出がそろって評価可能となります。提出ゼロは評価不能、課題のみ、レポートのみではD評価となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したが、また、展開させたいか、を問うものである。  
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

## キーワード /Keywords

アートと社会、反戦・反原発、プライベート/パブリック、プロジェクト

# 現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [ 第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法) ]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%  
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回扱うテーマについて、自ら予習しておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

## キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

# 民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
○	○										

## 授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理想的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集合的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

## 教科書 /Textbooks

指定教科書はない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 宇野重規（2019）『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史（2015）『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン，C.B.（田口訳 1978）『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール，R.（高嶋・前田訳）『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴（2015）『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ（2021）『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

# 民主主義とは何か【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(civil司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにがんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

# 民主主義とは何か【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

## 履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

## キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

# 民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理想的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集合的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができるかどうか、成績評価の基準となる。

## 教科書 /Textbooks

指定教科書はない

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 宇野重規（2019）『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史（2015）『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴（2015）『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ（2021）『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

# 民主主義とは何か【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(civil司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにがんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

# 民主主義とは何か【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

## 履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

## キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

# 人権論 【昼】

担当者名 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

「人権問題」といえば特別なものというイメージを抱くかもしれないが、実際には誰にとっても非常に身近なものであって、「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念や現存する人権問題、その社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権問題とは何かについて共に考えていきたい。

(目標)

【思考・判断・表現力】人権に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につける。

【コミュニケーション力】他者と協同して、人権に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。

【自立的行動力】人権に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有する。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は自宅・大学などからインターネットを接続して、自身のPCやスマートフォンで、(または大学のPC自習室でイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

## 教科書 /Textbooks

『人権とは何か』(横田耕一著 / (公社)福岡県人権研究所発行 ¥1000)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

必要な参考書は授業時に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」 オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」 人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「平和と人権」 戦争・平和についての解説。
- 6 「ハンセン病について」 ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。
- 7 「教育と人権～識字問題」 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 8 「教育と人権～夜間中学」 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 9 「部落問題について」 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 10 「部落問題について」 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 11 「在日外国人と人権課題」 在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 12 「在日コリアンについて」 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 13 「障害者と人権」 障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 14 「アジアの人権状況」 アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に取り組む姿勢(毎回の課題)【50%】と前期末試験(またはレポート)【50%】により評価する。
- ・ 出席率(課題提出)7割以上の学生のみ前期末試験の受験(またはレポート提出)を認める。
- ・ 出席が7割に満たない場合の評価は(D)、5割に満たない場合は評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 講義配信後、毎回の課題提出有り、締め切りは厳守のこと
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。
- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権問題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。

# 人権論 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

代筆などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。  
7割以上の出席が満たされない場合は、単位が取得できない。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。  
コロナの影響で、昨年に引き続きオンデマンドで講義を行います。何度でも視聴できるなど、オンデマンドの利点をいかして、講義にのぞんで欲しい。質問や問い合わせには個人メールで常時対応します。

## キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」  
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

# ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

「女性はわきまえているべき」、「男性は強くあるべき」、こんな言葉をどこかで耳にしたことはありませんか。みなさんの性自認がどうであれ、これを聞いて、納得した人もいるかもしれませんが、違和感を覚えた人もいるでしょう。しかし、どうして納得したり、違和感を覚えたりするのでしょうか。それは、私たちはだれもが、「女性はこういうものだ」「男性はこういうものだ」という性差、知識や規範、すなわち「ジェンダー」を意識しているからです。

本講義では、このジェンダーが何なのかを、思想、歴史、政治、社会運動などとの関係から理解することを目指します。そのなかで、多様な理解を得るためや、現状を知るために、ジェンダー平等やLGBTQをめぐって第一線で活躍する有識者や運動家へのインタビューも行います。

この講義は、遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

- 《思考・判断・表現力》ジェンダーに関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 《コミュニケーション力》他者と協働して、ジェンダーに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 《自律的行動力》ジェンダーに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

特にありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 中村敏子『女性差別はどう作られてきたか』、集英社新書、2021
- 西井開『『非モテ』からはじめる男性学』、集英社新書、2021
- 森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』、ちくま新書、2017
- 千田有紀ら『ジェンダー論をつかむ』、有斐閣、2013

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：ジェンダーって何？
- 第2回 ジェンダー規範①：近代国家と家父長制
- 第3回 ジェンダー規範②：家族と母性
- 第4回 フェミニズムの変遷
- 第5回 ライフプラン教育と性の管理
- 第6回 ジェンダー規範③：新しいジェンダー規範、モテ
- 第7回 ポストフェミニズムと女子力：
- 第8回 ジェンダー規範④：男らしさ、非モテ
- 第9回 確認テスト①
- 第10回 ジェンダーとセックス
- 第11回 セクシャルマイノリティ
- 第12回 ジェンダーとセクシャリティ：排除の構造
- 第13回 セクシャルマイノリティの排除の実例と包摂の試み
- 第14回 トランスジェンダーバッシング
- 第15回 確認テスト②

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

\* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能（-）となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

## 履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

# ジェンダー論 【昼】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。

## キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 5. ジェンダー平等、SDG 10. 不平等をなくす

# 障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。  
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

(到達目標)

【知識】障がいについての様々な捉え方を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】障がいの捉え方に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、障がいに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

特になし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

随時指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。  
レポートを提出した受講者に対してはS～D評価。未提出者に関しては一評価。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

# 北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科  
石川 敬之 / 地域共生教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室  
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点(自然・経済・市民)から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ばほか、環境関連施設(環境ミュージアムなど)見学により、その体験を講義での学習につなげる。

### 到達目標

- 【知識】北九州市の環境問題に対する取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州市の環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】北九州市の環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔授業(オンデマンド)です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。一部、ライブで収録する回もありますが、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円(税込み)  
[http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01\\_0438.html](http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして〜ESD〜(外部講師)
- 3回 北九州の自然と環境(基盤教育センター・村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 6回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 7回 環境ビジネスとエコタウン事業(大学院マネジメント研究科・松永)
- 8回 施設見学(環境ミュージアム)
- 9回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 10回 環境問題とNPO①(都市交通、外部講師)
- 11回 環境問題とNPO②(フードバンク、外部講師)
- 12回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 13回 特別講義(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(地域共生教育センター・石川)
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績・・・20%  
授業ごとの課題への取り組み(確認テスト・ミニレポート等)・・・70%  
期末レポート・・・10%  
課題・レポートの提出が全くない場合は評価不能(-)となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:北九州市環境首都検定公式テキストに関連する箇所を学習しておくこと。  
事後学習:授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。  
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

## 履修上の注意 /Remarks

施設見学（環境ミュージアム等）は原則として必須とする。  
・ 見学は授業期間中、レポート提出に間に合うよう、各自で行うこと。  
・ 環境首都検定は12月11日（日）の予定。

\*スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。  
\*見学にかかる交通費は自己負担とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。  
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

## キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

# 市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 検討の枠組みについて
- 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
- 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
- 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
- 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
- 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
- 8回 市民活動の<再生>② - 市民
- 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
- 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
- 11回 中間まとめ
- 12回 北九州市における市民活動のうねり
- 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
- 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
- 15回 全体まとめ

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%

期末試験... 50%

最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

# 企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を営むとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は自宅ないし大学からインターネットに接続して、パソコンやスマートフォン等で授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、任意のレポート課題を出します。

また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

## 履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

## キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8. 働きがい・経済成長、SDGs12. 作る・使う責任、SDGs15. 環境保全、等の問題と強く関連する。

# つながりの人間学【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、地域貢献活動（ボランティア活動）に参加するための入門科目として、以下の点を目的としています。

- ・ サービス・ラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービス・ラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

また、この講義が目指す到達目標は以下のとおりです

- 【知識】 サービス・ラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

地域貢献活動の経験を自らの学びや成長につなげていくための授業となります。  
関心を持たれた方は受講して下さい。

## 教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。  
講義時に適宜紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義時に適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 サービス・ラーニングの考え方
- 第3回 サービス・ラーニングとボランティア
- 第4回 サービス・ラーニングを行う理由
- 第5回 サービス・ラーニングとしての地域貢献活動（事例紹介）
- 第6回 サービス・ラーニングを通じた自己の学びと成長（先輩登壇）
- 第7回 サービス・ラーニングと地域の変化
- 第8回 これからの社会とサービス・ラーニング
- 第9回 日本における社会貢献活動の歴史
- 第10回 経験学習について
- 第11回 サービス・ラーニングの実践に向けて
- 第12回 良き市民としてのサービス・ラーニング
- 第13回 受講生による実践報告（1）
- 第14回 受講生による実践報告（2）
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」（55%）+「授業内での小テスト+授業への取り組み」（45%）=合計100%評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能（-）とします。  
また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能（-）となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。  
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。  
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

## つながりの人間学【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加（ボランティア活動の実施）を前提としています。受講生は、自ら「サービス・ラーニング」（ボランティア）を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉を行ない、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義では受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、授業の第一回目に、本科目を受講する理由や学びに向けた思いなどを「事前レポート」（1500字程度）として書いてもらい、それを第二回目の授業の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。このように本科目では受講生の積極的な参加意欲が必要となりますので、履修の際はご留意下さい。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

### キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナーシップ

# 現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor	篠崎 香織 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科 大平 剛 / 国際関係学科, ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科 久木 尚志 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科											
履修年次 1年次 /Year	単位 2単位 /Credits	学期 1学期 /Semester	授業形態 /Class Format	講義	クラス 1年 /Class							
対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

### 到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義はメディア授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

## 教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(篠崎)オリエンテーション
- 第2回(北)日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第3回(北)日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第4回(阿部)米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
- 第5回(政所)国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
- 第6回(政所)国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
- 第7回(久木)2010年代以降のイギリス(1)【政権交代】【国民投票】
- 第8回(久木)2010年代以降のイギリス(2)【EU離脱】
- 第9回(篠崎)世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
- 第10回(大平)東南・南アジアにおける安全保障と開発【一帯一路】【Quad】【債務の罠】
- 第11回(デルガド) Becoming an International Citizen in Japan: Carlos Ghosn success story and experience. 【International, Citizen, Japan】  
(※英語での講義です)
- 第12回(白石)中進国としての中国経済【経済成長】【SNA】【投資】
- 第13回(柳)朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
- 第14回(柳)北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
- 第15回(下野)台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】

※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回)100%  
小テストを1度も受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

## 履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。  
小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

## キーワード /Keywords

SDGsとの関連

第4回（阿部）9. 産業・技術革命

第5回、第6回（政所）16. 平和と公正

第7回（久木）3. 健康と福祉を

第8回（久木）10. 不平等をなくす

第9回（篠崎）11. まちづくり

第11回（デルガド）9. Innovation and Infrastructure（産業・技術革命）

第12回（白石）17. グローバル・パートナーシップ

第15回（下野）5. ジェンダー平等、10. 不平等をなくす、16. 平和と公正

# グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科  
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科  
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程  
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクションーグローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地（1）【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地（2）【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学（1）【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学（2）【文化と感情】
- 12回 国際労働移動（1）【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動（2）【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# グローバル化する経済【昼】

基盤教育科目  
教養教育科目  
テーマ科目

## キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

# 国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

## 教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【デタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- レポート 50% テスト 50%
- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
  - ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照らしながら、理解を深めること。

## 履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

## キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

# 日本史【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 絢子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

【授業内容】 一口に「日本史」といっても、時代によってその国家形態・領土・領民は異なる。本授業では日本の国家形成過程と、その統治下でどのような人たちが日本の歴史に関わってきたのかについて、構造的かつ空間的に学ぶ。

【到達目標】 歴史学の手法や、日本史研究の重要なトピックを学び、歴史学的視点から日本史をとらえ、教えることができる能力を身に付けることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。毎回の授業でレジュメ・資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「日本史」とは：歴史学の手法と、隣接学問分野から
- 第2回：稲作文化の伝来と小国家の分立
- 第3回：ヤマト王権による統合
- 第4回：中央集権化と日本の律令制
- 第5回：武家政権と朝廷の併存
- 第6回：中世における多元的支配
- 第7回：「天下統一」から幕藩体制へ：身分・宗教・対外意識
- 第8回：開国と国境画定
- 第9回：明治立憲体制
- 第10回：本国と植民地の関係
- 第11回：敗戦と占領
- 第12回：日本国憲法の制定
- 第13回：境界地域：沖縄と北海道
- 第14回：移動する人々：出稼ぎ・移民・引揚げ・旧植民地出身者
- 第15回：「日本」の歴史を学ぶ意味

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の課題 ( 30% ) と期末試験 ( 70% ) によって評価する。  
6回以上欠席した場合は、評価不能 ( - ) とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布する資料や、紹介する参考書などを事前・事後学習として読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
  - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
  - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
  - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
  - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
  - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
  - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
  - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
  - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
  - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
  - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
  - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
  - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
  - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
  - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%  
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)  
試験を受けなかった場合には、評価不能(一)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。  
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

## 履修上の注意 /Remarks

特にありません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

## キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

# 東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
  - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
  - 3回 秦(1) -戦国時代から中国統一へ-
  - 4回 秦(2) -始皇帝の統一政策-
  - 5回 前漢前期(1) -項羽と劉邦-
  - 6回 前漢前期(2) -高祖と冒頓単于-
  - 7回 前漢前期(3) -呂后-
  - 8回 前漢中期(1) -武帝-
  - 9回 前漢中期(2) -昭帝-
  - 10回 前漢中期(3) -宣帝-
  - 11回 前漢後期(1) -元帝-
  - 12回 前漢後期(2) -成帝-
  - 13回 前漢後期(3) -哀帝-
  - 14回 新の王莽 -王莽は「篡奪者」か-
  - 15回 まとめ
- 期末試験(場合によってはレポートなどの課題提出に変更する)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%  
\*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。  
定期試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)  
予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

## 履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。初回に講義のガイダンスを行うので、出席すること。  
講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。  
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

## キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

# 社会学【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。まず、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。さらに、現代の社会問題を社会学的に考えていく。

上記の内容を踏まえ、授業では以下の4点を目標とする。

- (1) 現代社会とはどのような社会なのか、社会学の基礎を学び、それを踏まえた上で現代社会の特性を理解する。
- (2) 多様な生き方を尊重することが望ましい現代において、生活の多様性における実態について理解する。
- (3) どのような社会構造の中で人が生活をしているのかを理解することを通して、人と社会のあり方を望ましいあり方について考えることができるようになる。
- (4) 社会問題とは何か、どのような背景によって社会問題は形成されるのかを理解し、社会政策等の社会問題への対策のあり方について考えることができるようになる。

なお、本科目は、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連するものである。

本講義は遠隔(オンデマンド)授業であるため、学生は自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

### 到達目標

- 【思考・判断・表現力】現代の社会問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、現代の社会問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。  
適宜資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『生活からみる社会のすがた』,稲月正・加来和典・牧野厚史・三隅一人編,学文社,2022年3月刊行予定
  - 『現代の社会学的読解』,山本努・辻正二・稲月正著,学文社,2014年,¥2640(古書)
  - 『最新社会福祉士養成講座⑨社会学と社会システム』,一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,中央法規,2021年,¥2,750
- その他、講義の中で、適宜、紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション【社会、社会学】
- 2 社会学的な考え方とは【記述、説明、行為、規範、制度、集団、構造】
- 3 社会学の歴史的展開1-E.デュルケムの方法【集合意識、機能、自己本位的自殺、アノミー的自殺】
- 4 社会学の歴史的展開2-M.ウェーバーの方法【理解社会学、社会的行為、意図せざる結果】
- 5 復習と課題解説
- 6 変容する家族【近代家族、核家族、夫婦家族、直系家族、定位家族、生殖家族、小家族化と家族の多様化】
- 7 社会集団と組織【ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、第1次集団、第2次集団、準拠集団、官僚制】
- 8 逸脱と社会統制【機能主義、正機能、逆機能、顕在的機能、潜在的機能、アノミー、ラベリング理論】
- 9 都市【産業都市、都市問題、脱工業化、情報化、分極化した都市、世界都市、アーバニズム、下位文化理論】
- 10 社会階層と社会移動【階級、階層、不平等、社会的資源、ジニ係数、社会移動、開放性係数、地位の非一貫性】
- 11 生活困窮(貧困)と社会的排除【経済的困窮、社会的孤立、社会的排除】
- 12 戦後日本の社会変動【高度経済成長、安定成長、戦後日本型循環モデル、性別役割分業】
- 13 大衆社会とファシズム【ナチズム、社会的性格、権威主義的パーソナリティ、機械的画一性への逃げ込み】
- 14 グローバル化と移民【国際労働力移動、移住システム論、顔の見えない定住化、排外主義】
- 15 授業のまとめと振り返り

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認小テスト...40%、課題レポート...60%とし、総合的に判断する。いずれも、メディア授業の際に出す。提出期限を過ぎた課題・小テストは受け付けできない。  
確認小テスト、課題レポートを1回も提出しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

## キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル  
SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」

# 人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

人文地理学は、地表上のさまざまな人文・社会現象を、特に地域的差異という視点から明らかにしようとする学問分野です。そのような定義からすると、研究の対象が極めて広範なものに及ぶことから、科学というよりは「ものの見方」に近いものであるとも言えるかもしれません。本講義では、人文地理学の諸分野における基礎概念や研究事例を取り上げ、地域を見る「ツール」としての「地理学的なものの見方や考え方」を習得することを目的とします。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。  
上野和彦・椿真智子・中村康子編 2015. 『地理学基礎シリーズ 1 地理学概論 [第2版]』朝倉書店。  
○浮田典良編 2003. 『最新地理学用語辞典改訂版』原書房。  
○中村和郎・手塚 章・石井英也 1991. 『地理学講座 4 地域と景観』古今書院。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：人文地理学の体系と歴史
- 第2回 人文地理学の基礎概念(1)：地域①(地域概念, 等質地域と機能地域)
- 第3回 人文地理学の基礎概念(2)：景観
- 第4回 人文地理学の基礎概念(3)：地域②(地域構造, 認知地域)
- 第5回 人文地理学の基礎概念(4)：環境
- 第6回 人文地理学の基礎概念(5)：分布と伝播
- 第7回 人間と社会の地理学(1)：人口
- 第8回 人間と社会の地理学(2)：村落
- 第9回 人間と社会の地理学(3)：都市①(都市概念, 都市化, 都市システム)
- 第10回 人間と社会の地理学(4)：都市②(都市空間構造, 都市変化)
- 第11回 産業と経済の地理学(1)：農業
- 第12回 産業と経済の地理学(2)：工業
- 第13回 産業と経済の地理学(3)：商業
- 第14回 産業と経済の地理学(4)：流通
- 第15回 授業のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題：40点, 学期中に実施する作業レポート：20点, 期末レポート：40点の合計100点満点で評価します。6回以上欠席した場合は, 評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが, 授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は, 次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

## 履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので, 出席に際しては, 色鉛筆(12色程度), 定規, 電卓(スマートフォンのアプリで構いません)を用意してください。履修条件はありませんが, 全体として作業量の多い講義ですので, その点はあらかじめご承知おきください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の「地理学」の内容を紹介する際に, よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については, 講義中に説明をしますが, 高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

## キーワード /Keywords

# 土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を知るための地図が必須で、地図は「地理学の言語」と言われるほど重要です。この科目では、地図を通じて基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の基礎的研究手法を学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。  
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。  
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。  
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

## 教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社, 2017年, 1650円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観1 【地図記号が示す景観】
- 7回 地図記号と景観2 【地図を読む楽しみ】
- 8回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 9回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 10回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる1(実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 12回 地形図を利用して景観を読みとる2(実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 13回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 14回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 15回 衛星データを利用して地表の環境を調べる

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%  
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 地誌学 【昼】

担当者名 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

地理学は大きく系統地理学と地誌学（地域地理学）の2分野に分けられることが多いですが、系統地理学（自然地理学や人文地理学）がさまざまな事象の地域的差異とその要因を探求するものであるのに対して、地誌学は、それらの知識を活用しながら、地域ごとの特性を明らかにしようとする学問分野です。

本講義では、身近な地域の事例としての北九州市や福岡県、また、より広域の地域としての九州・沖縄地方、日本の諸地域を取り上げながら、地域の特徴を明らかにするための地誌学的な手法を習得することを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。

菊池俊夫編 2011. 『世界地誌シリーズ1 日本』朝倉書店.

矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編 2020. 『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論 [第2版]』朝倉書店.

山本正三・谷内 達・菅野峰明・田林 明・奥野隆史編 2006. 『日本総論II(人文・社会編)』, 朝倉書店.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN(1): 地域の見方・考え方
- 第2回 インTRODクシヨN(2): 北九州市を説明する
- 第3回 身近な地域の見方(1): 北九州市と福岡県の自然環境
- 第4回 身近な地域の見方(2): 北九州市と福岡県の歴史・文化環境
- 第5回 身近な地域の見方(3): 北九州市と福岡県の社会・経済環境
- 第6回 広域スケールの地誌(1): 九州・沖縄地方①
- 第7回 広域スケールの地誌(2): 九州・沖縄地方②
- 第8回 広域スケールの地誌(3): 中国・四国地方①
- 第9回 広域スケールの地誌(4): 中国・四国地方②
- 第10回 日本の諸地域(1): 近畿地方
- 第11回 日本の諸地域(2): 中部地方
- 第12回 日本の諸地域(3): 関東地方
- 第13回 日本の諸地域(4): 東北地方
- 第14回 日本の諸地域(5): 北海道地方
- 第15回 授業のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題: 40点, 学期中に実施する作業レポート: 20点, 期末レポート: 40点の合計100点満点で評価します。  
6回以上欠席した場合は, 評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが, 授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は, 次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

## 履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので, 出席に際しては, 色鉛筆(12色程度), 定規, 電卓(スマートフォンのアプリで構いません)を用意してください。履修条件はありませんが, 全体として作業量の多い講義ですので, その点はあらかじめご承知おきください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「人文地理学」と同様の内容ですが, 大学の「地理学」の内容を紹介する際に, よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については, 講義中に説明をしますが, 高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

## キーワード /Keywords

# エンドユーザコンピューティング【昼】

担当者名  
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分)。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

# エンドユーザコンピューティング 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

## キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4 . 質の高い教育を，SDGs 8 . 働きがい・経済成長，SDGs 9 . 産業・技術革命，SDGs 10 . 不平等をなくす，SDGs 17 . パートナースhip

# 英語I ( 律政群 1 - G ) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

## 教科書 /Textbooks

successful keys to the TOEIC listening and reading test intro 2nd edition ISBN 978-4-342-55261-8 桐原書店 1980円

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Daily Life
- 2回 Places
- 3回 People
- 4回 Travel
- 5回 Business
- 6回 Office
- 7回 Technology
- 8回 Personnel
- 9回 Management
- 10回 Purchasing
- 11回 Finances
- 12回 Media
- 13回 Entertainment
- 14回 Health
- 15回 Restaurants

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。

リスニングの問題の音声を聞く。

## 履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC ( TOEFL ) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語I ( 律政群 1 - H ) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになしてください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「400点」です。(このスコアは前年度を参考に出しています)

## 教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC® L&R TEST

著者 松本 恵美子 他共著 成美堂 ¥2,200(税込み)

☆授業ではTOEIC問題を扱った下記のテキストを教科書として使用し、文法学習については随時プリントを配布する予定です。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○TOEIC公式問題集

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Unit 1 Listening & 基礎文法(文型1)
- 3回 Unit 1 Reading & 基礎文法(文型2)
- 4回 Unit 2 Listening & 基礎文法(動詞1)
- 5回 Unit 2 Reading & 基礎文法(動詞2)
- 6回 Unit 3 Listening & 基礎文法(動詞3)
- 7回 Unit 3 Reading & 基礎文法(時制1)
- 8回 Unit 4 Listening & 基礎文法(時制2)
- 9回 Unit 4 Reading & 基礎文法(時制3)
- 10回 Unit 5 Listening & 基礎文法(関係詞1)
- 11回 Unit 5 Reading & 基礎文法(関係詞2)
- 12回 Unit 6 Listening & 基礎文法(関係詞3)
- 13回 Unit 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Unit 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Unit 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書以外の問題集に取り組むことを勧めます。

## 履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

## キーワード /Keywords

# 英語I ( 律政群 1 - 1 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標) 【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

語彙 & 文法の復習テスト・ディクテーションテスト・Part 5 テストを実施します。

## 教科書 /Textbooks

Emiko MATSUMOTO 他、Progressive Strategy for the TOEIC L&R Test、978-4-7819-7233-3、SEIBIDO、2000円 (税別)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ、978-4-02-331568-6、朝日新聞出版、890円 (税別)

TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ、978-4-02-331684-3、朝日新聞出版、890円 (税別)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Sightseeing / Guided Tour
- 3回 Restaurant
- 4回 Hotel / Service
- 5回 Employment
- 6回 Entertainment
- 7回 Shopping / Purchases
- 8回 Sports / Health
- 9回 Doctor's Office / Pharmacy
- 10回 Hobbies / Art
- 11回 Education / School
- 12回 Technology / Office Supplies
- 13回 Transportation
- 14回 Travel / Airport
- 15回 Housing / Construction

## 成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。

試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

小テスト、予習・復習状況、学習への参加度、自主的な発表などから算出した平常点(20%)と筆記試験(80%)に TOEIC® L&R のスコアを加味して総合的に評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：わからないことを授業中に質問できるように準備しておきましょう。ディクテーションテスト・Part 5 テストを実施します。

事後学習：学習した語彙と文法を復習しましょう。語彙 & 文法の復習テストを実施します。

## 履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。

試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

第1回の授業の前に必ず新しい教科書を買ってください。

受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。

語彙 & 文法テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅学習を済ませてテストに臨んでください。

その他詳細は初回講義で説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。  
新型コロナウイルスの影響により、リモートクラスに移行することがあります。

## キーワード /Keywords

# 英語II ( 律政群 1-H ) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

## 教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC®LISTENING AND READING TEST: Level 2  
北尾泰幸編（朝日出版社、2021）9784255155951  
（本体1,700円＋税）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方と予習の仕方について説明。
- 第2回 Part 1 Eating Out
- 第3回 Part 2 Travel
- 第4回 Part 3 Amusement
- 第5回 Part 4 Meetings
- 第6回 Part 5 Personnel
- 第7回 Part 6 Shopping
- 第8回 Part 7 Advertisement
- 第9回 Daily Life
- 第10回 Office Work
- 第11回 Business
- 第12回 Traffic
- 第13回 Finance and Banking
- 第14回 Media
- 第15回 授業のまとめと試験について

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%  
定期試験 70%  
演習という授業の性格上、出席を重視します。最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。  
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習を重視しますが、やり方については第1回の授業で説明します。

## 履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語II ( 律政群 1 - 1 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになしてください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「400点」です。(このスコアは前年度を参考に出しています)

## 教科書 /Textbooks

Tipsで攻略するTOEIC L&Rテスト - Fun and Strategies for TOEIC Listening & Reading Test

著者 Ross Tulloch 他共著 英宝社 ¥2,310(税込み)

☆基礎文法学習として随時プリントを配布する予定。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○TOEIC公式問題集

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Chapter 1 Listening & 基礎文法(文型1)
- 3回 Chapter 1 Reading & 基礎文法(文型2)
- 4回 Chapter 2 Listening & 基礎文法(動詞1)
- 5回 Chapter 2 Reading & 基礎文法(動詞2)
- 6回 Chapter 3 Listening & 基礎文法(動詞3)
- 7回 Chapter 3 Reading & 基礎文法(時制1)
- 8回 Chapter 4 Listening & 基礎文法(時制2)
- 9回 Chapter 4 Reading & 基礎文法(時制3)
- 10回 Chapter 5 Listening & 基礎文法(関係詞1)
- 11回 Chapter 5 Reading & 基礎文法(関係詞2)
- 12回 Chapter 6 Listening & 基礎文法(関係詞3)
- 13回 Chapter 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Chapter 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Chapter 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習として的小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書に加えてTOEIC関連の問題集にも取り組んで下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC ( TOEFL ) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

## キーワード /Keywords

# 英語III ( 律政群 1 - H ) 【昼】

担当者名  
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次  
/Year

単位 1単位  
/Credits

学期 1学期  
/Semester

授業形態 講義  
/Class Format

クラス 律政群 1 - H  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
○	○										

## 授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。  
(到達目標)

【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

## 教科書 /Textbooks

World English 2A (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13031-5

¥3,025

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 30%, Quizzes and Presentations 20%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

## 履修上の注意 /Remarks

None

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

## キーワード /Keywords

# 英語Ⅲ ( 律政群 1 - 1 ) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。(到達目標)

【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a low-intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

## 教科書 /Textbooks

Pathways 1A: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56255-3 ¥3,091 [税込]

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 6回 Topic 2 – Expansion
- 7回 Topic 2 Presentation Preparation
- 8回 Topic 2 Presentation
- 9回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 10回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 11回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 12回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 13回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 14回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 15回 Topic 5 Presentation Preparation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 20%, Homework 15%, Presentations 20%, Final Test 20%

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (一) とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

## 履修上の注意 /Remarks

none

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 英語 IV ( 律政群 1 - H ) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishIII・ IV ( 共通 )

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 ( ライティング力 ) と話す力 ( スピーキング力 ) の向上を目指します。  
( 到達目標 )

【技能】英語 ( 読む、書く、聞く、話す ) を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

## 教科書 /Textbooks

Four Corners 2B (ISBN - 9781108627726)  
Cambridge University Press  
About ¥2,420

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Orientation  
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
- "Shopping"  
Describing and comparing products. Using comparative adjectives, enough and too. / Opposites, adjectives to describe clothing. /
- Unit listening and reading practice.
- "Fun in the City."  
Learning to talk about what you can do in a city. / Using "should" and adjectives to describe. / Asking for and giving recommendations.
- Unit listening and reading practice.
- "People"  
Learning to ask about and talk about people from the past. / Personality adjectives, certainty and uncertainty. / Talking about people you admire.
- Unit listening and reading practice.
- Mid-Term Revision
- "In a Restaurant"  
Learning to talk about menus and eating out. / Using present perfect to talk about experiences. / Menu items, ordering food, checking information.
- Unit listening and reading practice.
- "Entertainment"  
Learning to talk about movie habits and opinions. / Using so, too, either, neither. / Giving and making suggestions, types of music and movies.
- Unit listening and reading practice.
- "Time for a Change"  
Learning to talk about reasons for personal changes. / Using infinitives of purpose, will, may, might. / Reacting to good or bad news.
- Unit listening and reading practice.
- Final revision for testing.

## 成績評価の方法 /Assessment Method

33.33% - Final Test  
33.33% - Homework  
33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

## キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

# 英語Ⅳ ( 律政群 1 - 1 ) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。(到達目標)

【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

## 教科書 /Textbooks

World English 2B (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13032-2

¥3,025

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

## 成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 30%, Quizzes and Presentations 20%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

## 履修上の注意 /Remarks

None

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all-English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

## キーワード /Keywords

# 英語V ( 律政群 2 - E ) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストなどを用いて、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。各種練習問題を通してTOEIC問題形式に慣れるとともに、英語力を高めながらTOEICに対応する力をつけていきます。

## 教科書 /Textbooks

“Level-up Trainer for the TOEIC Test, Revised Edition”  
（著者）Ayako Yokogawa, Tony Cook（センゲージ・ラーニング）（¥2,310 [税込]）  
ISBN: 978-4-86312-294-9

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『TOEIC®テスト新公式問題集』

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation（授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明）
- 2回 Pre-test の実施。
- 3回 Unit 1 テキスト形式を知る
- 4回 Unit 2 基本戦略①
- 5回 Unit 3 基本戦略②
- 6回 Unit 4 英文の基本構造を見抜く
- 7回 Unit 5 解答根拠の登場順
- 8回 Unit 6 正解の言い換えパターンを知る
- 9回 Unit 7 機能疑問文を聞き取る
- 10回 Unit 8 動詞の時制を見極める
- 11回 Unit 9 接続詞 vs. 前置詞
- 12回 Unit 10 複数パッセージの攻略
- 13回 Unit 11 統副詞に強くなる
- 14回 Unit 12 NOT型設問のコツ
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、期末試験...50%、平常の授業への取組（小テストを含む）...30%、e-learning 学習状況...20%  
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。  
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 授業内で説明しますので、その指示に従いましょう。
- ①音声ファイルを必ずダウンロードして活用しましょう。
  - ②巻末の「頻出語句リスト」を活用し、単語をどんどん覚えていきましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC ( TOEFL ) を受験することが義務付けられていますので、第1回の授業に必ず出席して説明を受けること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。  
授業の詳細は、初回の授業で説明します。  
授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通して英語にふれるようにしましょう。  
予習・復習をしましょう。

## キーワード /Keywords

# 英語V ( 律政群 2 - F ) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主にTOEIC(R) L&Rテスト)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

## 教科書 /Textbooks

- ① SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST : INTERMEDIATE 「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：中級編」 番場直之 他著 金星堂 ￥2200(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ￥979(税込)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purchasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テストによる平常点(30%)、筆記試験(50%)、e-learning学習状況(20%)
- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

## 履修上の注意 /Remarks

- ・第1回の授業に必ず出席してください。
- ・基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC ( TOEFL ) を受験することが義務付けられています。
- ・受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・単語テストなどの事前の準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語V ( 律政群 2 - G ) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 ( 主にTOEIC (R) L&R ) の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

( 到達目標 )

【技能】英語 ( 読む、書く、聞く、話す ) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

## 教科書 /Textbooks

“SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L & R TEST : INTERMEDIATE”  
( 著者 ) 早川幸治他共著 金星堂 ¥2,200

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Dining Out : Listening 、 U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Media : Listening 、 U. 2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Entertainment : Listening 、 U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Purchasing : Listening 、 U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Clients : Listening 、 U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Recruiting : Listening 、 U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading、まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。  
指定e-learningの学習状況 : 20%、期末試験 : 60%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題) : 20%  
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能 ( - ) とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。  
第1回の授業に必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

## キーワード /Keywords

# 英語VI ( 律政群 2 - F ) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 ( 主にTOEIC (R) L&R ) の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

( 到達目標 )

【技能】英語 ( 読む、書く、聞く、話す ) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

## 教科書 /Textbooks

ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST ”  
( TOEIC LISTENING AND READING TEST オールラウンド演習 ) ( 著者 ) 石井隆之他共著 成美堂 ¥2,420

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Department Store : Listening 、 U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Train Station : Listening 、 U. 2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Transportation : Listening 、 U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Post Office : Listening 、 U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Bank : Listening 、 U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Airport : Listening 、 U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading 、 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。  
指定e-learningの学習状況 : 20%、期末試験 : 60%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題) : 20%  
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能 ( - ) とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。  
第1回の授業に必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

## キーワード /Keywords

# 英語VI ( 律政群 2 - G ) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、教科書の TEST 2 を使用して、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。

## 教科書 /Textbooks

公式 TOEIC(R) Listening & Reading 問題集 8 （国際コミュニケーション協会）（3,300円）

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

公式 TOEIC(R) Listening & Reading 問題集 1～7 （国際コミュニケーション協会）(○)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Part 1, Part 5 (1)
- 3回 Part 2, Part 5 (2)
- 4回 Part 3, Part 5 (3)
- 5回 Part 4, Part 5, (4)
- 6回 リスニングのまとめ
- 7回 TOEIC 演習
- 8回 Part 6
- 9回 Part 7 : Single passage (1)
- 10回 Part 7 : Single passage (2)
- 11回 Part 7 : Double passage (1)
- 12回 Part 7 : Double passage (2)
- 13回 Part 7 : Triple passage (1)
- 14回 Part 7 : Triple passage (2)
- 15回 リーディングのまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テスト、課題等を含む）...50%、e-learning 学習状況...20%  
最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。  
小テストを一回も受験しなかったら、評価不能（－）とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

## キーワード /Keywords

# 英語VII ( 律政群 2 - F ) 【昼】

基盤教育科目  
外国語教育科目  
第一外国語

担当者名  
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次  
/Year

単位  
/Credits

1単位

学期  
/Semester

1学期

授業形態  
/Class Format

講義

クラス 律政群 2 - F  
/Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

(到達目標 - goals)

【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to continue to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

We will aim to complete units 1-6 of the textbook. All language skills will be taught and used in class.

## 教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A, (3rd Ed.) by K. Wilson and M. Boyle (2592yen)  
ISBN: 978-0-19-460285-3

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Course introduction, requirements, grading advice.
- Week 2: Unit 1: I've been running. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.
- Week 3: Unit 1: Reading, speaking using pair work, and review of unit p1-5 at the back of the book. Answers given.
- Week 4: Unit 2: I wonder what it's about. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.
- Week 5: Unit 2: Reading, speaking using pair work, and review of unit p6-10 at the back of the book. Answers given.
- Week 6: Unit 3: It was painted by Banksy. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.
- Week 7: Unit 3: Reading, speaking using pair work, and review of unit p11-15 at the back of the book. Answers given.
- Week 8: Mid-term exam, based on units 1-3. 中間テスト
- Week 9: Unit 4: Who's your best friend? Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.
- Week 10: Unit 4 : Reading, speaking using pair work, and review of unit p20-24 at the back of the book. Answers given.
- Week 11: Unit 5: Gotta have it! Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.
- Week 12: Unit 5: Reading, speaking using pair work, and review of unit p25-29 at the back of the book. Answers given.
- Week 13: Unit 6: He'd never been abroad. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.
- Week 14: Unit 6: Reading, speaking using pair work, and review of unit p30-34 at the back of the book. Answers given.
- Week 15: まとめ Final exam based on units 4-6. Exam explanation and how to prepare.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam 50%  
Final exam 50%

- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 ( - ) とします。
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

# 英語VII ( 律政群 2 - G ) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。(到達目標)

【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

\*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

なし  
(see MOODLE)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし  
(see MOODLE)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の思い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の思い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の思い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 ( Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 ( Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 ( Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験: フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

\*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

\* 14周目と15周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、( 1 ) 宿題や課題等をアップロード、( 2 ) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるので( 遠隔〜対面 )必ず事前にMOODLEにて確認してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの方が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

## キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

# 英語VIII ( 律政群 2 - F ) 【昼】

担当者名 /Instructor 百武 玉恵 / Tamae Hyakutake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、毎回250語前後のエッセイを読みながら、文法力・語彙力・聴解力を身に付けていきます。

## 教科書 /Textbooks

『やさしく読める社会事情』

（著者）Joan McConnell, 山内 圭 成美堂（¥2,090 [税込]）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時やMoodle（学習管理システム）にて適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message
- 3回 Chapter 2 Overtourism is a Problem!
- 4回 Chapter 3 Gender Equality in the Workplace
- 5回 Chapter 4 Changing Definitions of Beauty
- 6回 Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance
- 7回 Chapter 6 Nature and Health
- 8回 Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces
- 9回 Chapter 8 Trees: A Gift from Nature
- 10回 Chapter 9 Tattoos
- 11回 Chapter 10 Redefining Gender and Marriage
- 12回 Chapter 11 All the Lonely People
- 13回 Chapter 12 Think Before You Talk, Text, or Tweet
- 14回 Chapter 13 Jeans Go Global!
- 15回 Chapter 14 Helping People with Disabilities

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：50%、平常の授業への取り組み：30%、小テスト：20%

評価不能（－）について

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

## キーワード /Keywords

# 英語VIII ( 律政群 2 - G ) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。又、この授業は、映像を通して英語圏の文化や人々の考え方を認識すると同時に英語能力を高めることも目的とします。

（到達目標）

[技能]英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで日常生活のニーズを充足できる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施する。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Warm-up, Vocabulary Preview, Getting to know the place, Learning More, Listening, Reading, American Voices をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。  
また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力、及び、他人に自分の考えを発信する力を養成する。

## 教科書 /Textbooks

『American Vibes-People, Places and Perspectives』  
著者：Todd Rucynski, Yoko Nakagawa,  
2020年1月 発行、 ¥2,970 (税入)  
出版社：金星堂

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3 ( 発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会 ) 等。

授業時やMoodle ( 学習管理システム ) にて適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 3 回 Chapter 2 Maine
- 4 回 Chapter 3 New York City 1
- 5 回 Chapter 4 New York City 2
- 6 回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 7 回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 8 回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 9 回 Chapter 8 Oswego, New York
- 1 0 回 Chapter 9 Austin, Texas
- 1 1 回 Chapter10 Saint Jo, Texas
- 1 2 回 Chapter11 Santa Fe, New Mexico
- 1 3 回 Chapter12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 1 4 回 Chapter13 Los Angeles 1
- 1 5 回 Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する)(20%)
- ③ 期末考査(60%)

\* 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

\* 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

受講生の理解度などに応じて授業計画や授業内容を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

## キーワード /Keywords

# 英語Ⅸ ( 英中国済営比人律政 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

( 到達目標 )

【技能】英語 ( 読む、書く、聞く、話す ) を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

## 教科書 /Textbooks

Mark D. Stafford, successful keys to the TOEIC listening and reading test 2, 桐原書店, 1980円

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Unit 1 Daily life
- 第 2 回 Unit 2 Places
- 第 3 回 Unit 3 People
- 第 4 回 Unit 4 Travel
- 第 5 回 Unit 5 Business
- 第 6 回 Unit 6 Office
- 第 7 回 Technology
- 第 8 回 Personnel
- 第 9 回 Management
- 第 1 0 回 Purchasing
- 第 1 1 回 Finances
- 第 1 2 回 Media
- 第 1 3 回 Entertainment
- 第 1 4 回 Health
- 第 1 5 回 Restaurants

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・90% 授業への取り組み・・・10%

試験を受験しなかった場合は、評価不能 ( - ) とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。

リスニングの問題の音声を聞く。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語X ( 英中国済営比人律政 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、応用的な英語能力の定着を目的とします。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

## 教科書 /Textbooks

ハリウッド ( 2 ) ビデオで見る映画とスターたち ( 朝日出版 ) ISBN4-255-15355-8 1,800円  
TOEIC 5分間ドリル リスニング3 ( マクミラン・ランゲージハウス ) ISBN978-4-7773-6258-5 1,000円

その他、適宜、プリントを用います。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、授業時に指定します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- |     |                       |                          |
|-----|-----------------------|--------------------------|
| 1回  | はじめに 英語を学ぶということ       |                          |
| 2回  | 聴解 ( 単語と文法の力をつける① )   | 読解 ( 単語と文法の力をつける① )      |
| 3回  | 聴解 ( 単語と文法の力をつける② )   | 読解 ( 単語と文法の力をつける② )      |
| 4回  | 聴解 ( 単語と文法の力をつける③ )   | 読解 ( 単語と文法の力をつける③ )      |
| 5回  | 聴解 ( 単語と文法の力をつける④ )   | 読解 ( 文脈を考える① )           |
| 6回  | 聴解 ( 英語の音に注目する① )     | 読解 ( 文脈を考える② )           |
| 7回  | 聴解 ( 英語の音に注目する② )     | 読解 ( 文脈を考える③ )           |
| 8回  | 聴解 ( 英語の音に注目する③ )     | 読解 ( 言語外の知識を利用する① )      |
| 9回  | 聴解 ( 英語の音に注目する④ )     | 読解 ( 言語外の知識を利用する② )      |
| 10回 | 聴解 ( 多様なアクセントに注目する① ) | 読解 ( 言語外の知識を利用する③ )      |
| 11回 | 聴解 ( 多様なアクセントに注目する② ) | 読解 ( 言外の意味を捉える① )        |
| 12回 | 聴解 ( 多様なアクセントに注目する③ ) | 読解 ( 言外の意味を捉える② )        |
| 13回 | 聴解 ( 多様なアクセントに注目する④ ) | 読解 ( 言外の意味を捉える③ )        |
| 14回 | 聴解 ( 音の聞き取りから意味の理解へ ) | 読解 ( 文法的な意味を超えたテキスト理解へ ) |
| 15回 | まとめ                   |                          |

## 成績評価の方法 /Assessment Method

原則として  
学期末試験・小テスト 80%  
課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。  
また、試験を受験しなかった場合は、評価不能 ( - ) とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 英語XI ( 英中国済営比人律政 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 英中国済営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

This is a "deep thinking in English" class at the English XI level.  
We will work together and enjoy conversations in English.  
You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。  
(到達目標)  
【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

ENGLISH XI is an "Active Learning" style course for English XI level students.  
We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.  
We will then assess each other and make our own videos.  
You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

\*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

英語XIのレベルにあわせた動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。  
英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

## 教科書 /Textbooks

なし  
(see MOODLE)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の思い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の思い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の思い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

# 英語XI ( 英中国济営比人律政 3 年 ) 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 ( Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等 ) 25%
- (b) Chapter 2 ( Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等 ) 25%
- (c) Chapter 3 ( Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等 ) 25%
- (d) 試験(Final Essay) 25%
- (e) \*Active Learning努力点 ( ± 20% ) の変動が加わります。

数式は  $[(a+b+c+d)÷4] ±20%$  です。

\*If you fail to submit the final report, you will be given a (-)

\* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、( 1 ) 宿題や課題等をアップロード、( 2 ) 変更等の確認をする。

\*Active Learning努力点が ± 20% の「変動力」もあるので、Active Learningに積極的に参加しましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるので ( 遠隔〜対面 ) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語XIのレベルにあわせ、学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

## キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

# 英語XII ( 英中国済営比人律政 3 年 ) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion during and after class. The focus will be on developing critical thinking skills and academic writing ability.

## 教科書 /Textbooks

English Central (4 Month Academic Premium)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Electronic dictionary and Internet use

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Case Study 1 - and discussion in class [Speaking, Skills] [Writing Skills]
- 第 3 回: Case Study 2 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 4 回: Case Study 3 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 5 回: Student Presentations (1) [Group Presentation] [Writing Skills]
- 第 6 回: Case Study 4 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 7 回: Case Study 5 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 8 回: Case Study 6 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 9 回: Case Study 7 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 10 回: Student Presentations (2) [Group Presentation] [Writing Skills]
- 第 11 回: Case Study 8 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 12 回: Case Study 9 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 13 回: Case Study 10 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 14 回: Case Study 11 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 15 回: Student Presentations (3) [Group Presentation] [Writing Skills]

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as ( - ) 【評価不能】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

## 履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

## キーワード /Keywords

Topic based discussion and writing

# 中国語I ( 1 - a ) 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』(日本語版)中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%  
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)  
事後学習：学習範囲の復習をする

## 履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語I ( 1 - b ) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができます。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』(日本語版)中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%  
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)  
事後学習：学習範囲の復習をする

## 履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語II ( 1 - a ) 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』(日本語版)中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%  
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)  
事後学習：学習範囲の復習をする

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語II ( 1 - b ) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』(日本語版) 中国・高等教育出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%  
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)  
事後学習：学習範囲の復習をする

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

# 中国語Ⅲ ( 1 - a ) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%  
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)  
事後学習：学習範囲の復習をする

## 履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。  
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。  
電子辞書を携帯すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅲ ( 1 - b ) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%  
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)  
事後学習：学習範囲の復習をする

## 履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。  
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。  
電子辞書を携帯すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅳ ( 1 - a ) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常生活に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- |     |      |                 |
|-----|------|-----------------|
| 1回  | 第九課  | 買い物をする・義烏と横店紹介  |
| 2回  | 第九課  | 買い物、練習問題        |
| 3回  | 第十課  | お金を両替・西安と洛陽紹介   |
| 4回  | 第十課  | 銀行にて、練習問題       |
| 5回  | 第十一課 | ホテルに泊まる・成都紹介    |
| 6回  | 第十一課 | ホテルにて、練習問題      |
| 7回  | 第十二課 | 電話を掛ける・昆明紹介     |
| 8回  | 第十二課 | 電話、練習問題         |
| 9回  | 第十三課 | 興味について語る・広州紹介   |
| 10回 | 第十三課 | 興味、練習問題         |
| 11回 | 第十四課 | 見方について語る・大連紹介   |
| 12回 | 第十四課 | 語り合い、練習問題       |
| 13回 | 第十五課 | 搭乗手続き・日本の紹介     |
| 14回 | 第十五課 | 空港での搭乗手続き・免税店にて |
| 15回 |      | 総合練習            |

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%  
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする ( CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など )  
事後学習：学習範囲の復習をする

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。  
電子辞書を携帯すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅳ ( 1 - b ) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- |     |      |                 |
|-----|------|-----------------|
| 1回  | 第九課  | 買い物をする・義烏と横店紹介  |
| 2回  | 第九課  | 買い物、練習問題        |
| 3回  | 第十課  | お金を両替・西安と洛陽紹介   |
| 4回  | 第十課  | 銀行にて、練習問題       |
| 5回  | 第十一課 | ホテルに泊まる・成都紹介    |
| 6回  | 第十一課 | ホテルにて、練習問題      |
| 7回  | 第十二課 | 電話を掛ける・昆明紹介     |
| 8回  | 第十二課 | 電話、練習問題         |
| 9回  | 第十三課 | 興味について語る・広州紹介   |
| 10回 | 第十三課 | 興味、練習問題         |
| 11回 | 第十四課 | 見方について語る・大連紹介   |
| 12回 | 第十四課 | 語り合い、練習問題       |
| 13回 | 第十五課 | 搭乗手続き・日本の紹介     |
| 14回 | 第十五課 | 空港での搭乗手続き・免税店にて |
| 15回 |      | 総合練習            |

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%  
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする ( CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など )  
事後学習：学習範囲の復習をする

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。  
電子辞書を携帯すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

# 中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%  
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)  
事後学習：学習範囲の復習をする

## 履修上の注意 /Remarks

- 1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修済であることが望ましい。
- 2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』(修訂版)中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%  
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)  
事後学習：学習範囲の復習をする

## 履修上の注意 /Remarks

- 1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
- 2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶというと相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%  
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)  
事後学習：学習範囲の復習をする

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「中日・日中」辞書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%  
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする( CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)  
事後学習：学習範囲の復習をする

## 履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

## キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

# 朝鮮語I ( 1 - a ) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。  
到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、  
適宜資料・プリントなどを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%  
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語I ( 1 - b ) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。  
受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。  
また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】自己紹介、簡単な挨拶表現、簡単な文章を読み理解することを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

嚴基珠・金三順ほか『韓国語初歩(三訂版)』白水社 2019年 2200円+税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

李昌圭『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年 2500円+税

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業案内、韓国語の概要、文字の構成、挨拶表現、基本母音字の練習
- 2回 母音字のドリル、基本子音字の練習
- 3回 激音と濃音
- 4回 文字の復習、読み取りテスト
- 5回 複合母音
- 6回 ハングルの終声(パッチム)
- 7回 発音の変化
- 8回 ハングル表記法及び話してみましよう。
- 9回 11課 大学生ですか。
- 10回 12課 会社員ではありません。
- 11回 13課 どこで習いますか。
- 12回 11~13課までの復習、小テスト
- 13回 14課 暑くありませんか。
- 14回 15課 誕生日はいつですか。
- 15回 14~15課までの復習、小テスト

## 成績評価の方法 /Assessment Method

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

- ・ 定期試験 : 50%
- ・ 日常の授業への取り組み : 40% (小テスト4回)
- ・ レポート : 10%

- ※成績評価の対象としない場合(評価不能)について
- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能とします。
  - ・ 定期試験を受験しなかった場合は評価不能とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 予習 : 次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。
- ①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。
  - ②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。
- 復習 : 以下の①~③について計60分程度の復習を行うこと
- ①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。
  - ②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。
  - ③その他、授業で指示された課題

## 朝鮮語I ( 1 - b ) 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

- ・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。
- ・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。
- ・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行ったうえで実施します。
- ・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

### キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅱ ( 1 - a ) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Ⅰで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩(改訂版)』(巖基珠ほか、白水社、2200円)、  
適宜資料やプリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『朝鮮語辞典』(小学館、8000円)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでなってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでなってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話応対】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上がりますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%  
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅱ ( 1 - b ) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。  
受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話を活用して学習を進めます。  
また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】自己紹介、簡単な挨拶表現、簡単な文章を読み理解することを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

『韓国語初歩(三訂版)』 巖基珠・金三順ほか 白水社 2019年 2200円+税

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『韓国語へ旅しよう』 初級 李昌圭著 朝日出版社 2014年 2500円+税

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 16課 どこに住んでいますか。(打ち解けた丁寧形)
- 3回 17課 先生いらっしゃいますか。(かしこまった尊敬形)
- 4回 18課 何をお探ですか。(打ち解けた尊敬形)
- 5回 16~18課の復習、小テスト
- 6回 19課 何をしましたか。(過去形)
- 7回 20課 何を召し上がりますか。
- 8回 19~20課の復習、小テスト
- 9回 21課 何時にお会いしましょうか。
- 10回 22課 水泳をしています。(進行形)
- 11回 21~22課の復習 我が家に一度遊びに来てください。
- 12回 23課 我が家に一度遊びに来てください。24課 市庁から近いですか。
- 13回 24課 市庁から近いですか。22~24課の復習、小テスト
- 14回 23~24課の復習、小テスト
- 15回 総まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

- ・ 定期試験 : 50%
- ・ 授業への取り組み : 40点 (小テスト4回)
- ・ レポート : 10%

成績評価の対象としない場合(評価不能(-))について

- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能(-)とします。
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習 : 次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。  
① 次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。  
② 教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。  
復習 : 以下の①~③について計60分程度の復習を行うこと  
① ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。  
② ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。  
③ その他、授業で指示された課題

## 朝鮮語II ( 1 - b ) 【昼】

### 履修上の注意 /Remarks

- ・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。
- ・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。
- ・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行ったうえで実施します。
- ・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

### キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅲ ( 1 - a ) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ! 韓国語』 金順玉・阪堂千津子 (白水社) 定価2,300円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周 (高橋書店)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声㉠】【終声㉡】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・50% 日常の授業への取り組み・・40% レポートや課題・・10%  
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅲ ( 1 - b ) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ!韓国語』 金順玉・阪堂千津子 (白水社) 定価2,300円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周 (高橋書店)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%

授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%

学期末試験・・・50%

\* 以下のような場合は、評価不能(-)とします。

①出席が10回未満の場合

②定期試験を受験しなかった場合

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅳ ( 1 - a ) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～ありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～に行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 50% 日常の授業への取り組み・・ 40% レポートや課題・・ 10%  
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅳ ( 1 - b ) 【昼】

担当者名 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営律政群 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ!韓国語』 金順玉・阪堂千津子 (白水社)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか?】
- 3回 疑問詞を使った表現【~は何/どこですか?】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ~しますか?】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか?】
- 7回 用言の否定形【~しません、~くありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【~に~しに行きます】好みの表現【~が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は?いくらですか?】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【~ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【~するつもりです】動作の進行【~しています】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%  
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%  
学期末試験・・・50%

\* 以下のような場合は、評価不能(-)とします。

- ①出席が10回未満の場合
- ②定期試験を受験しなかった場合

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。  
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語I・II』の復習
- 2回 第1課 過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 第3課 尊敬形の해요体、丁寧な命令形表現
- 7回 第3課 ㄹ 변則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
- 8回 第3課 김·민스さんのお宅ですね【練習問題、スキット】
- 9回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 10回 第4課 ㄹ 변則用言ドリル、用言 + 아서/어서、意志表現【-을래요/르래요】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 12回 第5課 意志・推測【을/르 거예요】、現在連体形
- 13回 第5課 未来意志・推測・婉曲【ㄹ 겠】、~しに・~ために表現。【未来の計画発表】
- 14回 第5課 夏休みに何をしますつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%  
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語V』の復習
- 2回 第6課 条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
- 3回 第6課 ㄹ変則ドリル、理由表現【用言+으니까/니까、指定詞・名詞+이니까/니까】
- 4回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 5回 第7課 名詞+하고/과/와、可能・不可能表現
- 6回 第7課 過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言+을/르게요】
- 7回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】 【メール文を書く】
- 8回 第8課 未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
- 9回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 10回 第9課 ㄱ変則ドリル、義務【用言+아/어야 되다(하다)】
- 11回 第9課 未来形推測【用言+을/르 것 같다】、許可【用言+아/어도 되다】
- 12回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 13回 第10課 ㄷ変則ドリル、不可能【못~/~지 못하다】
- 14回 第10課 現在形推測【는 것 같다/은/ㄴ 것 같다/인 것 같다】、経験表現
- 15回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%  
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

## キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

田谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 . オリエンテーション
- 2回 . 第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回 . 第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回 . 第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回 . 第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回 . 第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回 . 第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回 . 第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回 . 第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아/어서】
- 10回 . 第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回 . 第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回 . 第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回 . 第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回 . 第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回 . 第6課 物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・小テスト(2回)・課題...50%  
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合ひましょう。

## キーワード /Keywords

# 朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-ㄹ/을 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 かしくまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄴ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ/는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%  
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合いましょう。

## キーワード /Keywords

# ドイツ語I【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。

\* 到達目標は、以下の「基盤教育センター 到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

\* このシラバスは、対面授業を実施することを前提で作成されています。遠隔授業への変更に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて Moodle でお知らせします。ただし、教科書の変更はありません。

## 教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻 / あいさつ(2) / 時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う / アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物 / メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie / 命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語 / 建物など 文法：名詞の性 / 定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持っている? 持っていない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物 / 値段 文法：名詞と冠詞の3格 / 複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 ドイツ語Iのまとめと補足

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 定期試験 50%

・ 次のいずれかの条件に該当するときは「評価不能(一)」となります。

1. 出席回数が全授業回数の3分の2未満の場合。
2. 正当な理由なく、定期試験を欠席した場合。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。  
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。  
ETV「旅する(ための)ドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

# ドイツ語I【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。  
ただし、毎時間必ず出席してください。遠隔授業では毎週 Moodle を参照してください。  
担当者への連絡は、通常は Office 365 メールを利用してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話中心のテキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

## キーワード /Keywords

ドイツ語への入門 正確な発音と初級文法の習得

# ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識および運用力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

\* 到達目標は、以下の「基盤教育センター 到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

\* このシラバスは、対面授業の実施を前提に作成されています。遠隔授業の実施に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて Moodle でお知らせします。ただし、教科書の変更はありません。

## 教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要な場合には授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 ドイツ語IIのまとめと補足

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 定期試験 50%

・ 次のいずれかの条件に該当するときは「評価不能(一)」となります。

1. 出席回数が全授業回数の3分の2未満の場合。
2. 正当な理由なく、定期試験を欠席した場合。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。  
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。  
ETV「旅する(ための)ドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提に行われます。  
受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。  
遠隔授業では、毎週 Moodle を参照してください。  
担当者への連絡は、通常は Office 365 メールを利用してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話中心のテキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

## キーワード /Keywords

ドイツ語への入門 正確な発音と初級文法の習得

# ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

### 到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。

例えば、「君のお父さんの職業は何ですか。」とその答え。

Was ist dein Vater von Beruf?

Mein Vater ist Angestellter.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

## 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

### 到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。

例えば、「君は週末に何をしましたか。」とその答え。

Was hast du am Wochenende gemacht?

Ich habe gejoggt.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

## 履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

### 到達目標

自分の日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。  
例えば、「君は昼食に何を食べますか。」とその答え。

Was isst du zu Mittag?

Ich esse Udon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『スツエーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他  
( Szenen 2 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語VI 【昼】

担当者名 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

### 到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。

例えば、「君はもうクリスマスを楽しみにしていますか。」とその答え。

Freust du dich schon auf Weihnachten?

Ja, schon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『スツエーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他  
( Szenen 2 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいかがですか？【お店】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

### 到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」で検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫びて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

### 到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」を検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

## 履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

到達目標

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400+税）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 être の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%  
試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

## 履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)

遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

## キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

# フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

到達目標

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』 (藤田裕二著 朝日出版社 ¥2400+税)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%  
試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: テキスト各課の本文(会話文)を付属のCDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。  
事後学習: 毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

## 履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)  
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。  
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

## キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

# フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営人律政 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、フランス文化に触れつつ、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいは映像を使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

## 教科書 /Textbooks

シエ・マドレーヌ

東海麻衣子、ジャン＝ガブリエル サントニ 著、朝日出版社刊

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

仏和辞典

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本のアニメをフランス語でしてみる ( 1 )  
〈文法〉フランス語の子音と母音
- 2回 日本のアニメをフランス語でしてみる ( 2 )  
〈文法〉フランス語の読み方
- 3回 自己紹介とあいさつ、フランスという国 ( 1 )  
〈文法〉名詞の性と数
- 4回 職業について語る、フランスという国 ( 2 )  
〈文法〉主語人称代名詞、動詞 être、否定形
- 5回 住んでいるところについて語る、世界の中のフランス語 ( 1 )  
〈文法〉-er 動詞、不定冠詞と定冠詞
- 6回 カフェで注文してみる、世界の中のフランス語 ( 2 )  
〈文法〉形容詞〔1〕
- 7回 様々な言語について、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語 ( 1 )  
〈文法〉動詞 avoir、疑問文
- 8回 持ち物について語る、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語 ( 2 )  
〈文法〉人称代名詞の強勢形、疑問形容詞、数字 11～20
- 9回 家族について語る、ジャポン・エキスポ ( 1 )  
〈文法〉所有形容詞
- 10回 人物を描写してみる、ジャポン・エキスポ ( 2 )  
〈文法〉不規則動詞 aller, venir, vouloir、国名につく前置詞
- 11回 インタビュー、フランスの地方の魅力 ( 1 )  
〈文法〉部分冠詞、指示形容詞
- 12回 さまざまな質問、フランスの地方の魅力 ( 2 )  
〈文法〉疑問代名詞
- 13回 好きな食べ物について語る、フランスの朝ごはん ( 1 )  
〈文法〉疑問副詞、前置詞と定冠詞の縮約
- 14回 服装について語る、フランスの朝ごはん ( 2 )  
〈文法〉命令形、-ir 動詞
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題 ( 50% )、学期末試験の結果 ( 50% )を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験 5 級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価 C を保証します。

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

## フランス語Ⅲ【昼】

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

### キーワード /Keywords

# フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

1学期と同じくフランス文化に触れつつ、基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

シェ・マドレーヌ  
東海麻衣子 ジャン＝ガブリエル サントニ著、朝日出版社刊

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

仏和辞典

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツについて語る、フランスのヴァカンス(1)  
〈文法〉形容詞(2)
- 2回 朝食について語る、フランスのヴァカンス(2)  
〈文法〉数量表現、不規則動詞 savoir, voir, mettre
- 3回 人を誘ってみる、フランスの世界遺産(1)  
〈文法〉目的補語人称代名詞
- 4回 行き先を聞く、フランスの世界遺産(2)  
〈文法〉非人称構文、数字 21~69
- 5回 日常生活について(1)、フランスのホームパーティー(1)  
〈文法〉代名動詞(1)
- 6回 日常生活について(2)、フランスのホームパーティー(2)  
〈文法〉代名動詞(2)
- 7回 有名人について語る、フランスのスポーツ(1)  
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(1)
- 8回 アルバイトについて語る、フランスのスポーツ(2)  
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(2)
- 9回 レストランで(1)、フランス人の余暇(映画・音楽)(1)  
〈文法〉複合過去(1)
- 10回 レストランで(2)、フランス人の余暇(映画・音楽)(2)  
〈文法〉複合過去(2)、中性代名詞 en
- 11回 過去について語る(1)、フランスの美術館(1)  
〈文法〉半過去(1)
- 12回 過去について語る(2)、フランスの美術館(2)  
〈文法〉半過去(2)、中性代名詞 y と le
- 13回 メールを書く、フランスの教育制度  
〈文法〉命令形
- 14回 近い未来の計画について話す、フランスの大学生生活  
〈文法〉近接未来
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)と学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

## キーワード /Keywords

# フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

松村博史『クロワッサン 2』、朝日出版 2300円+税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

皆さんの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：1課Dialogue、自己紹介
  - 第2回：複合過去の復習
  - 第3回：2課Dialogue、直接目的補語と間接目的補語
  - 第4回：強制形、
  - 第5回：小テスト① 3課Dialogue、代名動詞
  - 第6回：代名動詞の複合過去
  - 第7回：4課Dialogue、中性代名詞、
  - 第8回：指示代名詞
  - 第9回：小テスト②、5課Dialogue
  - 第10回：前未来
  - 第11回：現在分詞とジェロンディフ、過去分詞と受動態
  - 第12回：小テスト③、所有代名詞
  - 第13回：6課
  - 第14回：7課Dialogue、複合過去と半過去
  - 第15回：大過去
- ※上記は目安であり、習熟度によって変わる可能性があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト30%
  - 授業中の取り組み20%
  - 期末テスト50%
- ただし出席が前提です。  
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習をしっかりと行うこと

## 履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でも構いませんが、スマートフォンは不可です。すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。VIではLe petit prince (『星の王子さま』)のリーディングも行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

村松博史『クロワッサン2』、朝日出版、2300円+税

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

Le Petit Prince (Antoine de Saint-Exupéry, Gallimard) ○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：7課までの復習
- 第2回：8課Dialogue、時を表す接続詞
- 第3回：小テスト①、理由・条件を表す接続詞
- 第4回：長文読解(歌詞)
- 第5回：9課Dialogue、条件法現在
- 第6回：条件法過去
- 第7回：12課
- 第8回：小テスト②、10課Dialogue、関係代名詞
- 第9回：強調構文
- 第10回：11課Dialogue、接続法
- 第11回：小テスト③、リスニング
- 第12回：長文読解(『星の王子さま』狐の話)
- 第13回：長文読解(『星の王子さま』献辞)
- 第14回：長文読解(『星の王子さま』第1章)
- 第15回：長文読解(『星の王子さま』バオバブの話)

※上記はあくまで目安であり、習熟度に合わせて進度が変化する場合があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%  
授業中の取り組み20%  
期末テスト50%  
ただし出席が前提です。  
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習復習をしっかりと行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。すでに一年間フランス語を学んだ学生が対象です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1: 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1: 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1: 自己紹介 (総括)
- 4) unité 2: 質問する (前半)
- 5) unité 2: 質問する (後半)
- 6) unité 2: 質問する (総括)、小テスト
- 7) unité 3: 買い物をする (前半)
- 8) unité 3: 買い物をする (後半)
- 9) unité 3: 買い物をする (総括)
- 10) unité 4: いつ (前半)
- 11) unité 4: いつ (後半)
- 12) unité 4: いつ (総括)、小テスト
- 13) unité 5: どこ (前半)
- 14) unité 5: どこ (後半)
- 15) unité 5: どこ (総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (2回)・・・40%

期末テスト・・・40%

授業中の取り組み・・・20%

ただし出席が前提です。

4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6 : 誰 (前半)
  - 2) unité 6 : 誰 (後半)
  - 3) unité 6 : 誰 (総括)、リスニング
  - 4) unité 7 : 何 (前半)
  - 5) unité 7 : 何 (後半)
  - 6) unité 7 : 何 (総括)、小テスト
  - 7) unité 8 : どのように (前半)
  - 8) unité 8 : どのように (後半)
  - 9) unité 8 : どのように (総括)、読解
  - 10) unité 9 : 過去について (前半)
  - 11) unité 9 : 過去について (後半)
  - 12) unité 9 : 過去について (総括)、小テスト
  - 13) unité 10 : 仮定、条件 (前半)
  - 14) unité 10 : 仮定、条件 (後半)
  - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・20%  
小テスト(2回)・・・40%  
プレゼンテーション・・・20%  
レポート・・・20%  
ただし出席が前提です。  
4回以上欠席した場合、またはプレゼンテーションを行わなかった場合は、評価不能(－)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

フランス語

# スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 宮城 志帆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語を初めて学ぶ学生が対象の授業です。文法事項を中心に練習問題や会話文、文化紹介も扱うテキストを使用し、基礎的なスペイン語文法を学習します。授業で新しく学ぶ内容は次週の学習内容のベースとなり、その繰り返しでスペイン語を身につけていきます。そのため復習と予習を毎週しっかりと行って下さい。授業ではスペイン語圏の文化についても紹介する予定です。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

岡田敦美・那須まどり『改訂版 エスピギータ 一実りのスペイン語一』朝日出版社 2022年 ¥2,530

※初版は2017年ですが、今年改訂版が発行されています。授業では2022年の改訂版を使うので、購入時にしっかり確認して下さい。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

辞書を必ず準備して下さい。ただ詳細は初回授業で説明しますので、購入はその後で大丈夫です。

iPhoneやiPadの使用者には「辞書by物書堂」というアプリをお勧めします。アプリ内ストアで、小学館の『西和中辞典』と『和西辞典』がセットになった辞書コンテンツ「小学館 西和中辞典・和西辞典」を買うことができます。Android用としてはLogoVista提供のアプリに白水社『現代スペイン語辞典・和西辞典 改訂版』があります。

代表的な中型辞書として小学館『西和中辞典』、白水社『現代スペイン語辞典』、研究者『プエルタ新スペイン語辞典』、三省堂『クラウン西和辞典』などがあります。小型辞書は小学館『プログレッシブ スペイン語辞典<第2版>カレッジエディション』『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』、三省堂『デイリーコンサイズ 西和・和西辞典』などがあります。書店や生協で購入可能です。

電子辞書の使用者には、スペイン語辞書の追加コンテンツもあります。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、文字と発音
- 第2回 音節分け、アクセント
- 第3回 名詞の性数、冠詞、形容詞
- 第4回 主格人称代名詞、ser動詞、文の構造
- 第5回 指示語、estar動詞
- 第6回 小テスト1 ( 1 ~ 3 課 )、形容詞、hay
- 第7回 現在形規則活用
- 第8回 規則活用の練習、日付、時間
- 第9回 現在形不規則活用 ( 語幹母音変化 )
- 第10回 直接目的格人称代名詞、muyとmucho
- 第11回 小テスト2 ( 4 ~ 6 課 )、現在形不規則活用 ( yo不規則、複合型 )
- 第12回 現在形不規則活用 ( その他 )、間接目的格人称代名詞
- 第13回 gustar型動詞、前置詞格人称代名詞
- 第14回 gustar型動詞の練習、天候
- 第15回 小テスト3 ( 7・8 課 )、地図を使った学習、文化演習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小テスト(3回)30%

※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回分の復習と次回分の予習を必ず行って下さい。また教科書やプリントの練習問題について、指定された箇所を解き終えた状態で次の授業を受けて下さい。随時紹介するオンライン資料も次までに確認・視聴しましょう。スペイン放送協会RTVEのWebサイト

( <https://www.rtve.es/play/videos/directo/24h/> ) やRTVE Noticiasというニュースアプリで、スペイン語のニュースを24時間見ることが出来ます

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語という新しい言語との出会いを楽しみましょう。そのために授業ではスペイン語を使う上での基本ルール (= 文法) を覚えていきます。音楽や映画、書籍、絵画、料理、スポーツなど様々なテーマでスペイン語圏の文化に積極的に触れてみましょう。

# スペイン語I【昼】

## キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン ラテンアメリカ 言語 外国語 初級文法 異文化理解 国際コミュニケーション

# スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 宮城 志帆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

1学期の「スペイン語I」に引き続き、初級文法の学習を進めます。現在形の再帰動詞及び過去形と完了形を中心に扱います。未来形や接続法も導入することにより、修了後の更なる学習へ繋がるレベルを目指します。スペイン語圏の文化やニュースについても紹介します。  
(到達目標)  
【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

岡田敦美・那須まどり『改訂版 エスピゲータ 一実りのスペイン語I』朝日出版社 2022年 ¥2,530

※1学期「スペイン語I」と同じテキストの続きを扱います。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

1学期で用意した辞書を引き続き使います。その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 1学期の復習、再帰動詞
- 第2回 無人称文、接続詞que
- 第3回 点過去形規則活用
- 第4回 点過去形規則活用の練習
- 第5回 小テスト1 ( 9・10課)、点過去形不規則活用
- 第6回 点過去形不規則活用の練習、関係代名詞que、所有形容詞後置形
- 第7回 小テスト2 ( 10・11課)、点過去形の練習
- 第8回 現在分詞、不定語・否定語
- 第9回 過去分詞、現在完了形、受動態
- 第10回 小テスト3 ( 12・13課)、比較級
- 第11回 最上級、関係副詞donde
- 第12回 線過去形、過去形の使い分け
- 第13回 小テスト4 ( 14・15課)、過去形の練習、未来形の紹介
- 第14回 過去未来形・命令形・接続法の紹介
- 第15回 2学期の総復習、地図を使った学習、文化演習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小テスト(4回)30%  
※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回分の復習と次回分の予習を必ず行って下さい。また教科書やプリントの練習問題について、指定された箇所を解き終えた状態で次の授業を受けて下さい。随時紹介するオンライン資料も次までに確認・視聴しましょう。スペイン放送協会RTVEのWebサイト (<https://www.rtve.es/play/videos/directo/24h/>) やRTVE Noticiasというニュースアプリで、スペイン語のニュースを24時間見ることが出来ます

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「スペイン語II」では過去形や完了形など現在形以外の時制も学びます。辞書にも慣れ表現できることの幅が広がるだけでなく、好きな曲の歌詞が理解できるようになったり、憧れのスポーツ選手のプロフィールやインタビューが読めるようになったりします。覚えることはたくさんありますが、自分の「好き」をスペイン語で楽しむ体験を積み重ねていって欲しいと思います。

## キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン ラテンアメリカ 言語 外国語 初級文法 異文化理解 国際コミュニケーション

# スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『彩りスペイン語Español Colorido』辻博子、野村明衣著、朝日出版社、2021

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1課 スペイン語とスペイン語圏について、スペイン語のアルファベット、発音、アクセント
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの確認、挨拶、数字「おはよう。」
- 3回 2課 名詞、冠詞「ロス・アンヘレス」
- 4回 名詞・冠詞の確認
- 5回 3課 形容詞、主語、ser動詞「私は学生です」
- 6回 ser動詞の確認「どちらの出身ですか」
- 7回 ser動詞確認テスト、4課 規則活用動詞「スペイン語を話しますか」
- 8回 規則活用動詞と頻度表現「私は週に2度スペイン語を習います」
- 9回 5課 指示詞、所有詞「これはわたしのです」
- 10回 日付、時間表現「今何時ですか」
- 11回 6課 estar動詞、ser動詞との違い「あの人は今日怒っている」
- 12回 hay、estar動詞との違い「今家にいますか」
- 13回 ser、estar、hayのまとめテスト「今日の恰好はとてもすてきだね」
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%  
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

## 履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。

また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

# スペイン語Ⅲ【昼】

## キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

# スペイン語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、文法事項の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

『彩りスペイン語Español Colorido』辻博子、野村明衣著、朝日出版社、2021 (1学期と同じ)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課 不規則活用動詞1、時間表現2「電車は午後3時に出ます」
- 2回 直接目的格人称代名詞、間接疑問文「ルイスがどこに住んでいるか知っていますか」
- 3回 8課 不規則活用動詞2「コーヒーがほしいですか」
- 4回 間接目的格人称代名詞、2つの目的格人称代名詞のまとめ「誰にそれをあげるの」
- 5回 9課 不規則活用動詞3「兄弟はいますか」
- 6回 不規則活用動詞まとめ、前置詞格人称代名詞
- 7回 gustarとgustar型動詞
- 8回 7課～9課 まとめテスト、10課 不定語・否定語、天候表現「今日は寒い」
- 9回 比較表現「私はラウルより背が高い」
- 10回 11課 再帰動詞「私は朝7時に起きます」
- 11回 再帰動詞確認「もう帰っちゃうの」
- 12回 後期まとめ
- 13回 スペイン語のビデオを見てみよう1
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう2
- 15回 全体のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

## 履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国营放送)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

## キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

# スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 政2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
○	○										

## 授業の概要 /Course Description

昨年度（1年次）の続きとして、中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

（到達目標）

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

昨年のテキストの文法事項の続きをしますが、テキストは用いず、moodleから教材のプリントに文法事項の内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項を積み上げていきます。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

西和辞典：

スペイン語中辞典（小学館）

新スペイン語（研究社）

現代スペイン語辞典（白水社）

プログレッシブスペイン語辞典（小学館）

級スペイン語辞典（白水社）

他多数有。

白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典：

和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）

クラウン和西辞典（三省堂）

その他

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）

スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）

スペイン（増田監修：新潮社）

スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）

スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）

スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）

スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）

スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。

1 1年の復習（代名詞を中心に）（1）

2 1年の復習（代名詞を中心に）（2）

3 1年の復習（代名詞を中心に）（3）

4 スペイン語の動詞活用の全体像について

5 点過去・線過去・現在完了の用法（1）

6 同上（2）

7 同上（3）

8 動詞の派生形とその用法（進行形、完了形、命令形など）（1）

7 同上（2）

9 未来形・過去未来・過去完了（1）

10 同上（2）

11 同上（3）

12 上記時制も含め、重要な文法事項：複文（副詞節・形容詞節）（1）

13 同上（2）

14 同上（3）

15 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習（1）

# スペイン語Ⅴ【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数（80%）だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど）は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について：全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能：定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう（30分程度）。

## 履修上の注意 /Remarks

上記文法資料に対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp（北九大メールではなく、こちらに送って下さい）

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

# スペイン語VI 【昼】

担当者名 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

## 教科書 /Textbooks

昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項をまとめていきます。

最後にスペイン語版のアニメ(題材未定)を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

スペイン語中辞典(小学館)

新スペイン語(研究社)

現代スペイン語辞典(白水社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

パスポート初級スペイン語辞典(白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典:

和西辞典(宮城、コントレラス監修:白水社)

クラウン和西辞典(三省堂)

その他

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)

スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)

スペイン(増田監修:新潮社)

スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)

スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)

スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本(寿里著:東洋書店)

スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 前期を含め、様々な構文のまとめ(受け身、使役、放任、比較など)(1)

2 同上(2)

3 時制の一致

4 再帰動詞(1)

5 同上(2)

6 いくつかの文法事項(感嘆文、比較表現)

7 同上(2)

8 接続法の活用全般について

9 接続法の用法(1)

10 同上(2)

11 同上(3)

12 スペイン語版アニメ(題材未定)による聞き取りと訳

13 同上(2)

14 同上(3)

15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

# スペイン語VI 【昼】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数（80%）だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど）は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について：全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能：定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう（30分程度）。

## 履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp（北九大メールではなく、こちらに送って下さい）

## キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

# スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はあまりありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集してあり、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

## 教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 現在形と再帰動詞
- 2回 1課 SNSと余暇
- 3回 2課 gustarの用法と不定詞を伴う表現
- 4回 2課 スペインのテニス選手
- 5回 3課 過去時制の使い分け 現在完了と点過去
- 6回 3課 世界で最も古いレストラン
- 7回 4課 過去時制の使い分け 線過去
- 8回 4課 ファッション
- 9回 5課 過去時制の使い分け 点過去・線過去・過去完了
- 10回 5課 養子縁組
- 11回 6課 未来と過去未来 不定詞を伴う助動詞的表現
- 12回 6課 風力発電
- 13回 7課 不定詞を伴う助動詞的表現 おいしいコーヒーの入れ方
- 14回 8課 比較級 エラスムス留学制度
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

## 履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際にながしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> ( TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。 )

<http://www.cadena100.es/> ( スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。 )

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

## キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

# スペイン語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はあまりありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集してあり、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

## 教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』(1学期と同じものを使用) 中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期復習 9課 接続法現在1
- 2回 9課 ホンジュラスの交番
- 3回 10課 接続法現在2
- 4回 10課 育休取得
- 5回 11課 接続法現在3
- 6回 11課 アポロフォビア
- 7回 12課 接続法現在4
- 8回 12課 日本語学習のアドバイス
- 9回 13課 接続法過去1
- 10回 13課 スペインの安楽死
- 11回 14課 接続法過去2
- 12回 14課 チュッパチャップスの歴史
- 13回 15課 条件文
- 14回 15課 地中海に沈んだ夢
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能( - )とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

## 履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際にながしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> ( TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。 )

<http://www.cadena100.es/> ( スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。 )

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

## キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

# 戦争と平和【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シニールです。)

### 到達目標

【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

なし。レジユメを用意します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。適宜指示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

## 成績評価の方法 /Assessment Method

1~3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。

小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻りに小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈ないように、動画内容を工夫したいと思います。

# 戦争と平和 【夜】

基盤教育科目  
教養教育科目  
ビジョン科目

キーワード /Keywords

# 生活世界の哲学【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こちらは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

### 【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

## 教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ ○プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- ・ 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- ・ S. サリー『ジユデイス・バトラー』, 青土社
- ・ 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- ・ ○植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- ・ 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

\* 授業中にもご紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：(プラトン、アリストテレス)
- 第3回 【古代】共同体って何？①：(プラトン、アリストテレス)
- 第4回 【中世】人間って何？②：(アウグスティヌス)
- 第5回 【中世】共同体って何？②：(アウグスティヌス)
- 第6回 【近代】共同体って何？③：(ホッブズ、ロック、ルソー)
- 第7回 【近代】人間って何？③：(カント)
- 第8回 【近代】資本主義って何？(マルクス)
- 第9回 【現代】公共性って何？(ハーバーマス)
- 第10回 【現代】正義って何？(ロールズ)
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

\* ( ) の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

\* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能( - )となります。

\* 確認テストを受験しない場合も、評価不能( - )となります。

# 生活世界の哲学【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

## 履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

## キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

# メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス(心の健康)の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス(心の健康)」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス(社会的健康)やSDGs(持続可能な開発目標)にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康(SDGs 3)や平和と暴力(SDGs 16)をテーマに持続可能な豊かな社会を求めよう行動するかを皆で考える授業である。

(到達目標)【自律的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs(持続可能な開発目標)の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

## 成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%) ②定期試験もしくは期末課題レポート(60%)  
(注意:「評価不能」について。認められた事由のない欠席回数が総授業回数の過半数を超える場合と期末定期試験を認められた事由なしに受験しなかった場合は「評価不能」とします。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にしていくことが大切だと考える。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

# メンタル・ヘルスI【夜】

基盤教育科目  
教養教育科目  
スキル科目  
ライフ・スキル

## キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。

# 自然史へのいざない【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)  
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

### 到達目標

- 【知識】自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】自然史についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

本講義はほぼ遠隔授業（ライブもしくはオンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。なお、ライブ授業の回であっても、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。

[ラ] ライブ授業、[オ] オンデマンド配信授業、[対] 対面授業、( )内は担当者、【 】はキーワード

- 1回 [ラ] ガイダンス (日高)
- 2回 [ラ] 生命の起源を探る (柳川) 【極限環境】 【微生物】
- 3回 [オ] 植物を鍵とした生物間相互作用 (真鍋) 【共生】 【食物連鎖】
- 4回 [オ] 北九州市周辺の地質と化石の多様性について (太田) 【化石】 【ジオパーク】
- 5回 [オ] 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化 (大橋) 【恐竜】 【脊椎動物】
- 6回 [オ] 鳥類の生態と進化 (中原) 【適応放散】 【進化的軍拡競争】
- 7回 [オ] 海産無脊椎動物の行動生態学 (竹下) 【無脊椎動物】
- 8回 [オ] 多様性生物学と進化 (荻島) 【進化】 【生物多様性】
- 9回 [オ] アンモナイトの古生物学 (御前) 【古生態学】 【異常巻アンモナイト】
- 10回 [オ] 水辺の隣人、両生類の多様性と保全 (江頭) 【絶滅危惧】 【ホットスポット】
- 11回 [対] 博物館見学 (日高)
- 12回 [ラ] 人新世におけるヒトと植物の関係 (河野) 【人新世】 【科学史】
- 13回 [ラ] 北九州の近代史 (藤田) 【軍都】 【SDGs未来都市】
- 14回 [ラ] 課題研究・げけっとミュージアム (日高)
- 15回 [ラ] まとめ (日高)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 60%
- ・ 授業への積極的取り組み (質問・ディスカッション等) 20%
- ・ 博物館見学レポート 10%
- ・ まとめレポート 10%

上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。※北方生のみ、ひびきの生除く。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。

事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

# 自然史へのいざない【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 第11回は12月3日(土)午後3限または4限に博物館にて見学の予定。
  - ・ 博物館までの交通費は自己負担。保険加入(学研災など)の状況を確認しておくこと。
  - ・ 第14回はグループワークを行うのでできるだけライブで参加すること。
- 第1回に詳細について説明するので必ず参加(視聴)すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

SDGsとの関連:

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

# 現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。

「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」までがわかるわけではありません。

「こころ」は目に見えるものではないので、「こころ」を知るために心理学では行動を観察することから始めます。観察する対象は、行動だけでなく、質問にハイ・イイで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面からどうすれば「こころ」のしくみが明らかになるか実験や研究を続けています。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のテーブルに置かれたリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるものではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、噛むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難を抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から「こころ」がどのように見えるのかについて考えていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

遠隔授業が必要になった場合は、インターネットで北九大Moodleに接続し、そこにある授業資料をよみ、授業動画を視聴した後、授業に対する所定のコメントを翌日まで提出することが求められます。授業動画については、資料内に記載されたウェブサイト (URL) をクリックすることで視聴できます。

## 教科書 /Textbooks

教科書はとくに指定しませんが、レポートを書くには下記の参考書を読むことで理解が深まります。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 行場次朗・箱田裕司 (2014) 新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 福田恭介 (2018) ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きっとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版
- 神奈川LD協会編 (2006) ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 丸野俊一・子安増生 (1998) 子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- 三浦麻子・佐藤博 (2018) なるほど！心理学観察法 北大路書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編 (2006) ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- やまだようこ (1987) ことばの前のことば 新曜社

# 現代人のこころ【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 序論：心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：先天性盲人の開眼手術後の知覚世界
- 6: 目1：目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: 目2：まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 記憶1：数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 記憶2：昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦しさを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント（15回）：30点  
レポート（1回）：30点  
期末試験：40点

6回以上欠席した場合は、評価不能（－）とします。  
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：Moodleにあげた資料を読み，資料内のURLをクリックして動画を視聴してください。  
事後：授業で取り上げた内容についてコメントを書いてください。

レポート：指定した参考書の中からもっとも関心のある領域を読んで，所定の書式のレポートに5,000字程度で要約し，200字程度のコメントを書いてください。図書館には1冊しか配架していないので生協で購入してください。レポートを書くのは前期で1回限りです。書式や切については最初の授業で紹介します。

## 履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます（事後学習）。
2. 次の授業時間，書かれたコメントの一部には回答したいと思います。
3. 配付資料やコメントへの回答には，関連する本やウェブサイトを紹介しますので，それに目を通すと理解が深まります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようにいろいろな仕掛けを用意したいと思います。

## キーワード /Keywords

知覚，目の動き（眼球運動，瞳孔運動，瞬目），選択的注意，注意の見落とし，短期記憶，長期記憶，ワーキングメモリ，心の発達，発達障害

# 現代正義論【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [ 第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法) ]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%  
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回扱うテーマについて、自ら予習しておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

## キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

# 市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

## 教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 検討の枠組みについて
- 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
- 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
- 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
- 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
- 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
- 8回 市民活動の<再生>② - 市民
- 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
- 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
- 11回 中間まとめ
- 12回 北九州市における市民活動のうねり
- 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
- 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
- 15回 全体まとめ

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%

期末試験... 50%

※最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

# 国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

## 教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【デタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照らしながら、理解を深めること。

## 履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

## キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

# エンドユーザコンピューティング【夜】

担当者名  
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

（到達目標）

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

## 教科書 /Textbooks

なし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし。随時紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

# エンドユーザコンピューティング 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

## キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4 . 質の高い教育を，SDGs 8 . 働きがい・経済成長，SDGs 9 . 産業・技術革命，SDGs 10 . 不平等をなくす，SDGs 17 . パートナースhip

# データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	○	○										

## 授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】【複合グラフ】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題への取り組み ... 50%  
積極的な授業への参加(タイピング、振り返りレポートなどを含む) ... 50%  
課題やタイピング、振り返りレポートなどの提出が全くない場合は、評価不能(－)です。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、授業中に学んだことをまとめて、課題や振り返りレポートなどを提出条件に従って締め切りまでに間に合うように提出すること。タイピングや表計算ソフトExcelなどのコンピュータ操作については、自主練習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。それらの場合は、授業中に説明する。

## キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理